



須磨海浜水族園・海浜公園再整備事業
認定公募設置等計画
(概要)

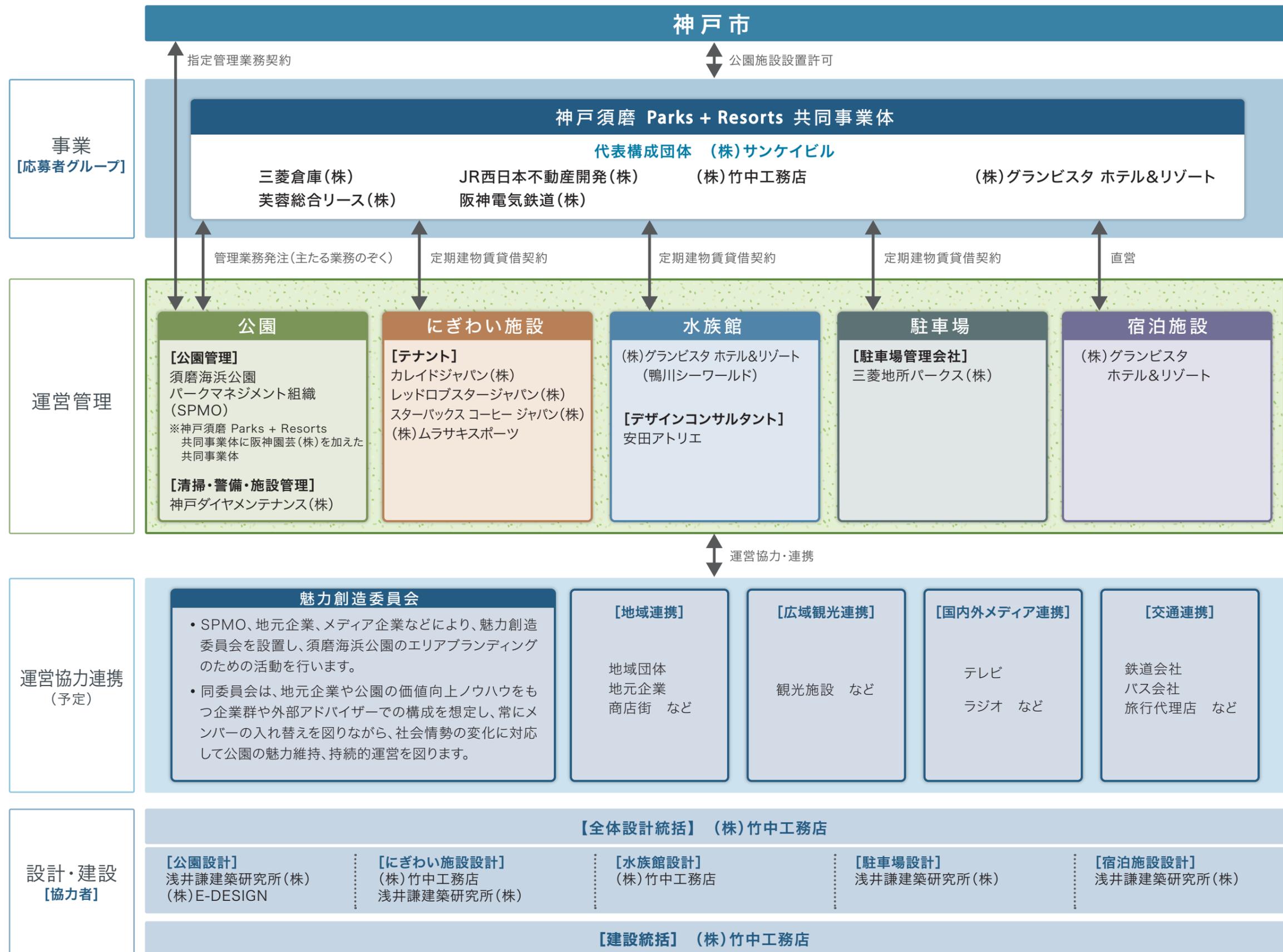
目次

001	▶ 全体①	事業全体の実施体制
002	▶ 全体②	エリアコンセプト・ブランドイメージ
003	▶ 全体③	施設配置・ゾーニングの考え方、事業区域全体の平面図
004	▶ 全体④	施工計画・事業スケジュール
007	▶ 公園①	松の保全・育成方針
008	▶ 公園②	園路・広場計画
009	▶ 公園③	パークコンシェルジュ棟・須磨コレクション
010	▶ 公園④	動線計画(歩行者)
011	▶ 公園⑤	防災の考え方
012	▶ 公園⑥	イベント実施目標・KPI
013	▶ にぎわい施設	全体コンセプト／業種・業態
014	▶ 水族館①	基本方針
016	▶ 水族館②	展示計画
023	▶ 水族館③	飼育・研究・生物収集計画
024	▶ 水族館④	保全活動への取り組み
025	▶ 水族館⑤	教育への取り組み
026	▶ 水族館⑥	利用料金、地域への取り組み
027	▶ 水族館⑦	来場者数目標・投資計画
028	▶ 宿泊施設①	基本方針、基礎情報
029	▶ 宿泊施設②	外観・内装、宿泊利用者以外の方の利用(外部利用)
030	▶ 駐車場①	施設計画
031	▶ 駐車場②	動線計画(車両)
032	▶ 駐車場③	交通渋滞の緩和策
033	▶ その他①	地域経済への効果
034	▶ その他②	事業の実施目標・KPI
035	▶ その他③	価格提案
036	▶ その他④	【参考提案】須磨海岸やヨットハーバー等、周辺施設との連携に関するアイデア提案



全体① 事業全体の実施体制

公園全体の魅力再生に向けて強力な事業実施体制を構築し、30年間の確実かつ持続的な事業遂行をします。



全体② エリアコンセプト・ブランドイメージ

コミュニティと観光客が交流する、「つながる」海浜リゾートパークをつくります。



エリアコンセプト・ブランドイメージ 「つながる」海浜リゾートパーク

アーバンコミュニティパーク 【地域のQOL向上】

六甲山／松林
ローカル
日常／リラックス
カジュアル

デスティネーションリゾート 【観光集客】

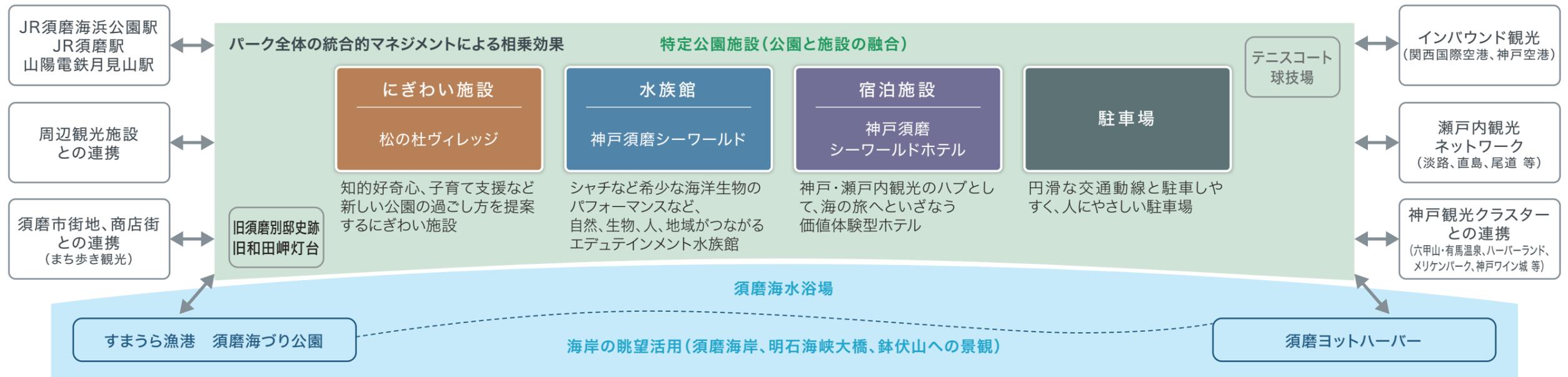
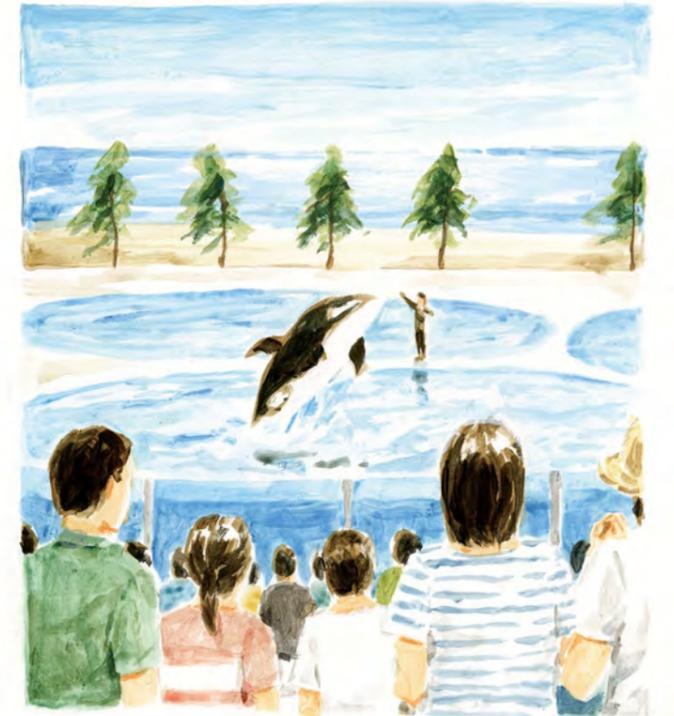
瀬戸内海
グローバル
非日常／アクティブ
プレミアム

「つながる」海浜リゾートパーク

神戸須磨

Parks + Resorts

- 交流** 観光客と市民がつながる
COMMUNICATION
- 融合** 公園・海と各施設がつながる
FUSION
- 連携** 世界／瀬戸内／関西とつながる
NETWORK
- 継承** 歴史や未来とつながる
SUSTAINABLE
- 体験** 感動／文化／知育とつながる
EXPERIENCE



エリア ブランディング イメージ

かつて風光明媚な保養地・別荘地として開発された地域資源を再生し、地域と共存する新しいリゾートや公園のあり方を構築することで、ニース(コートダジュール=紺碧海岸)やアメリカ西海岸(モンテレー)のように国内外で認知される、海のまちブランドを創出します。白砂青松、青々とした緑、と言われるように日本では古来から青と緑が混用されてきました。『碧(へき)』は、「あお」とも「みどり」とも訓読みされる日本の伝統色で、その色相は一定ではなく、青に見える碧、緑に近い碧など様々な色があり、美しいものの例えにも用いられる言葉です。

私たちは、
 青 = 瀬戸内海、リゾート、観光客、世界(グローバル)、非日常プレミアム、未来
 緑 = 六甲山／松林、公園、コミュニティ、地域(ローカル)、日常カジュアル、歴史に見立て、青と緑が二極対立ではなく、碧色のように美しく調和して溶け合い、多様なつながりと交流を生むような場所と仕組みをつくります。

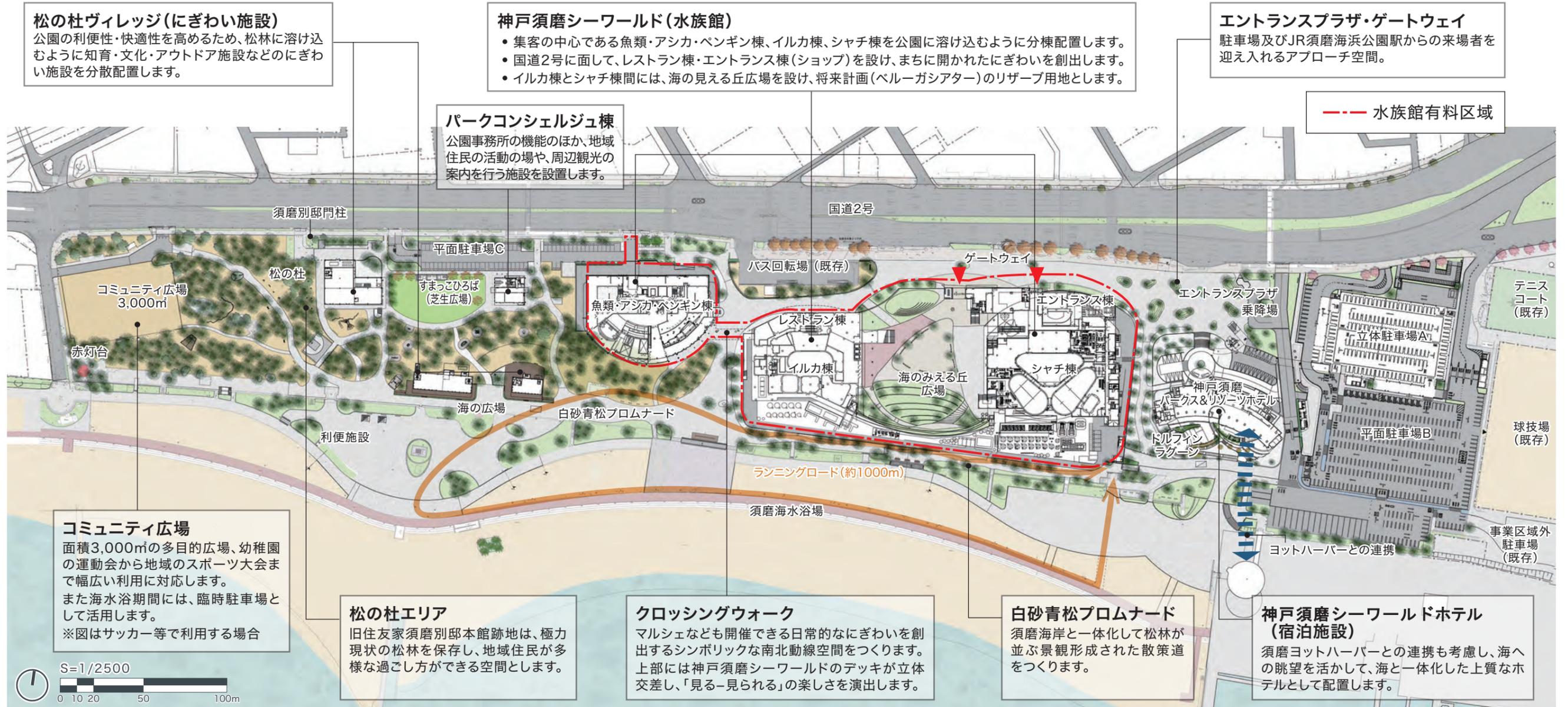


全体③ 施設配置・ゾーニングの考え方、事業区域全体の平面図

「パークとリゾートの共存と融合」を目指して、海浜公園になじむように施設を配置し、公園全体の価値創造を図ります。

施設配置・ゾーニングの考え方、事業区域全体の平面図

- 旧住友家須磨別邸本館跡地は、現状の松林を極力残して、地域住民が多様な過ごし方を実現できる開かれた公園エリアとします。公園内にパークコンシェルジュ棟を設け、公園の管理事務機能のほか、地域住民のコミュニティ活動サポート(松林クラブ、ワークショップ、ヨガなど)、周辺を含めた観光案内の提供などを行います。
- 公園に溶け込むように神戸須磨シーワールドやホテル、にぎわい施設を配置します。
- シーパル須磨は解体し、跡地はコミュニティ広場として活用するとともに、鉢伏山～須磨海岸の眺望景観価値向上を図ります。
- ホテルは、ヨットハーバーとの連携も可能な配置とします。
- 駐車場は、事業区域の東端に集約配置を行い、公園内の歩車分離を図ります。



松の杜ヴィレッジ(にぎわい施設)
公園の利便性・快適性を高めるため、松林に溶け込むように知育・文化・アウトドア施設などのにぎわい施設を分散配置します。

神戸須磨シーワールド(水族館)
●集客の中心である魚類・アシカ・ペンギン棟、イルカ棟、シャチ棟を公園に溶け込むように分棟配置します。
●国道2号に面して、レストラン棟・エントランス棟(ショップ)を設け、まちに開かれたにぎわいを創出します。
●イルカ棟とシャチ棟間には、海の見える丘広場を設け、将来計画(ペルーガシアター)のリザーブ用地とします。

エントランスプラザ・ゲートウェイ
駐車場及びJR須磨海浜公園駅からの来場者を迎え入れるアプローチ空間。

パークコンシェルジュ棟
公園事務所の機能のほか、地域住民の活動の場や、周辺観光の案内を行う施設を設置します。

--- 水族館有料区域

コミュニティ広場
面積3,000㎡の多目的広場、幼稚園の運動会から地域のスポーツ大会まで幅広い利用に対応します。また海水浴期間には、臨時駐車場として活用します。
※図はサッカー等で利用する場合

松の杜エリア
旧住友家須磨別邸本館跡地は、極力現状の松林を保存し、地域住民が多様な過ごし方ができる空間とします。

クロッシングウォーク
マルシェなども開催できる日常的なにぎわいを創出するシンボリックな南北動線空間をつくります。上部には神戸須磨シーワールドのデッキが立体交差し、「見る-見られる」の楽しさを演出します。

白砂青松プロムナード
須磨海岸と一体化して松林が並ぶ景観形成された散策道をつくります。

神戸須磨シーワールドホテル(宿泊施設)
須磨ヨットハーバーとの連携も考慮し、海への眺望を活かして、海と一体化した上質なホテルとして配置します。

事業区域全体の平面図(1/2500)



東西方向の立面図

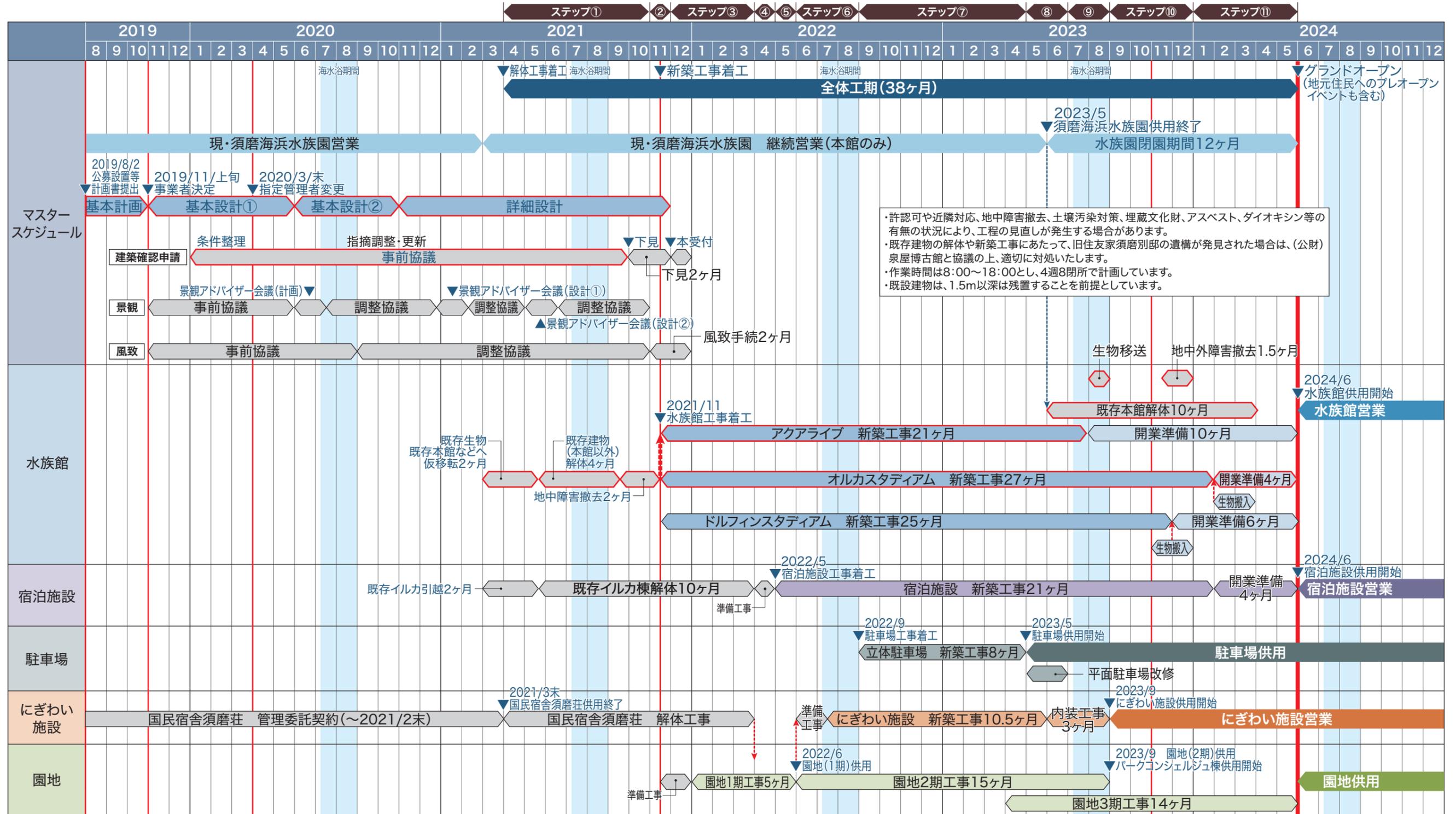
※各施設名称については仮称であり、今後検討致します。

全体④ 施工計画・事業スケジュール

水族館閉園期間12ヶ月とし、2024年6月グランドオープンを目指します。

施工計画・事業スケジュール／各施設の供用開始目標／既存施設の供用終了時期

- 公園全体での合理的な施工計画を検討し、2021年4月解体着工、2021年11月新築、2024年6月に供用開始とします。
- 駐車場は、海水浴期間を避けて施工し、2023年5月に供用開始とします。
- 園地・にぎわい施設は、国民宿舎須磨荘の解体後に段階的に行い、市民の公園利用が継続できるように配慮して、第1期工事部分の園地は2022年6月に供用開始とします。
- 早期に景観担当部局と協議し、提案の実現と景観上の配慮を最大限に両立するよう努めます。



安全性や周辺環境、市民の公園利用に配慮した段階的な施工計画とします。

施工手順／工事占用区域／工事期間中の公園利用可能区域

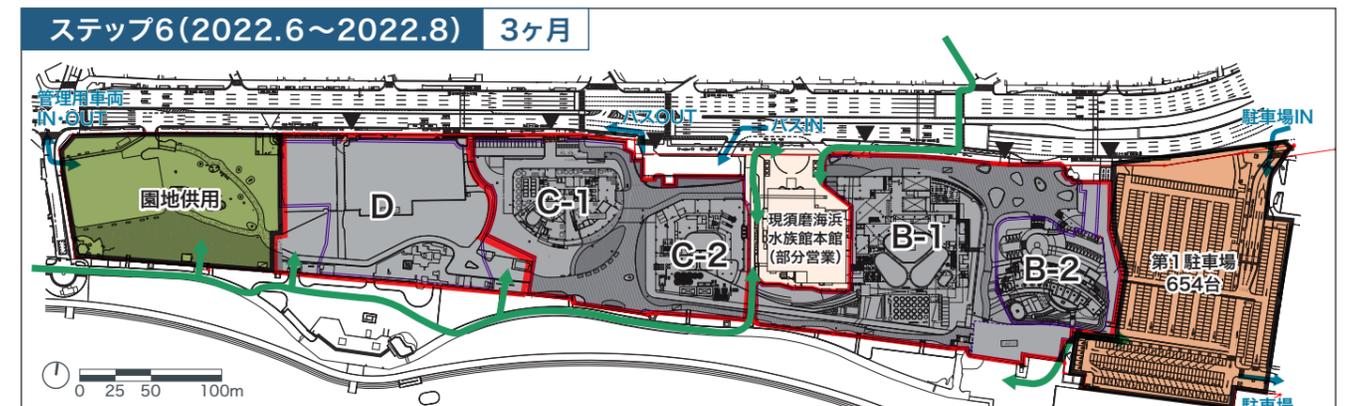
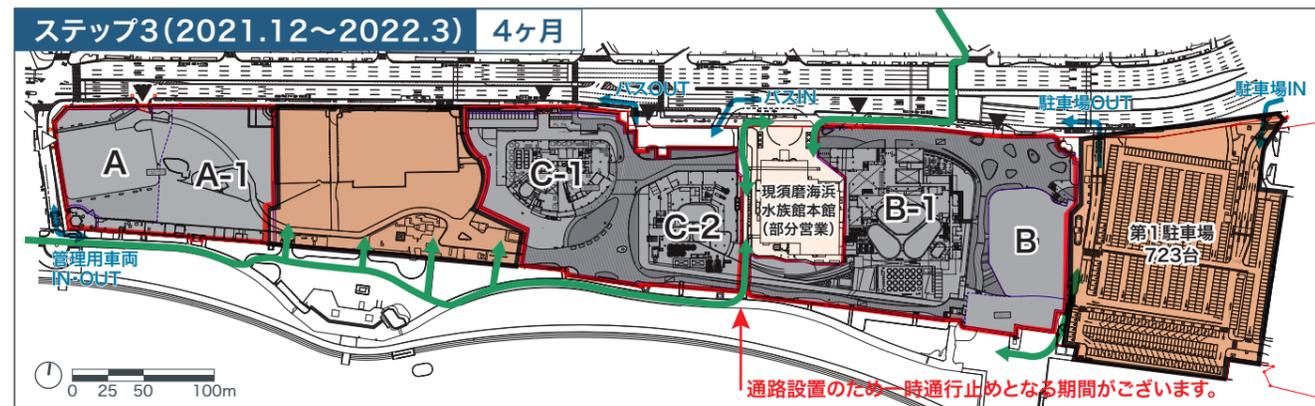
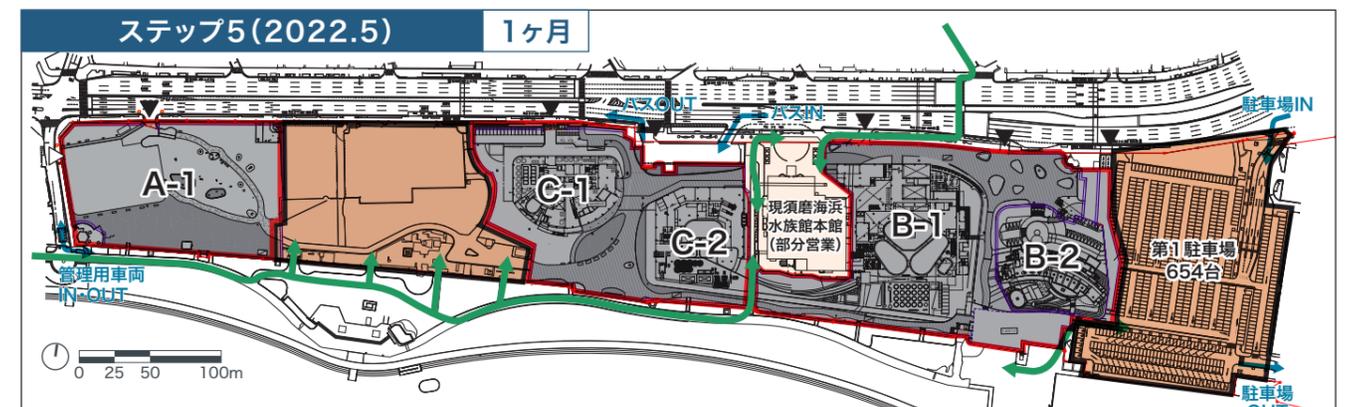
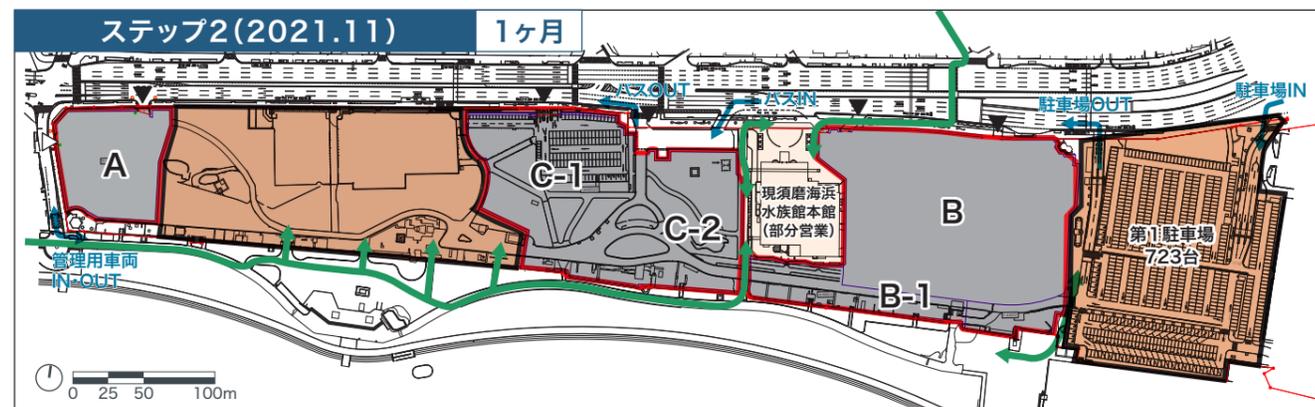
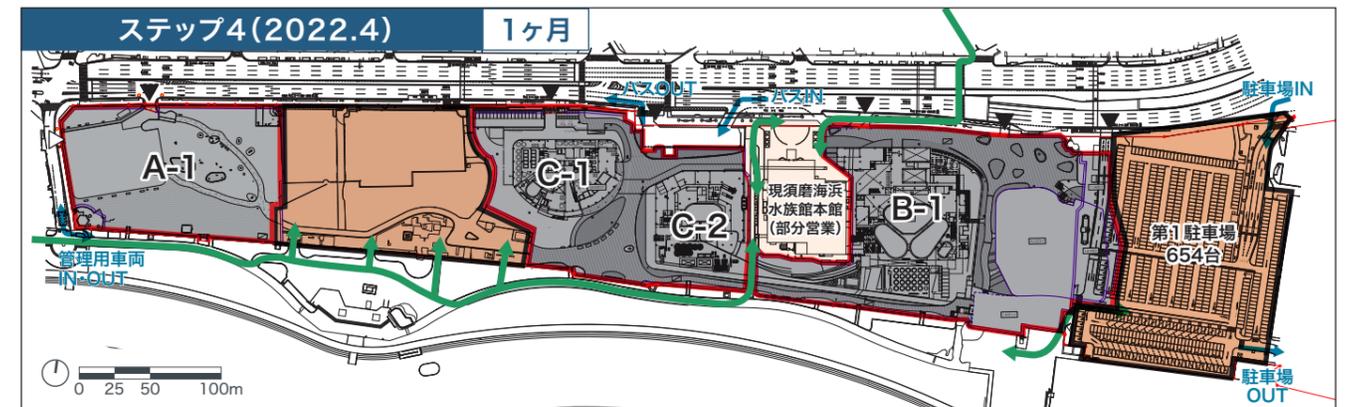
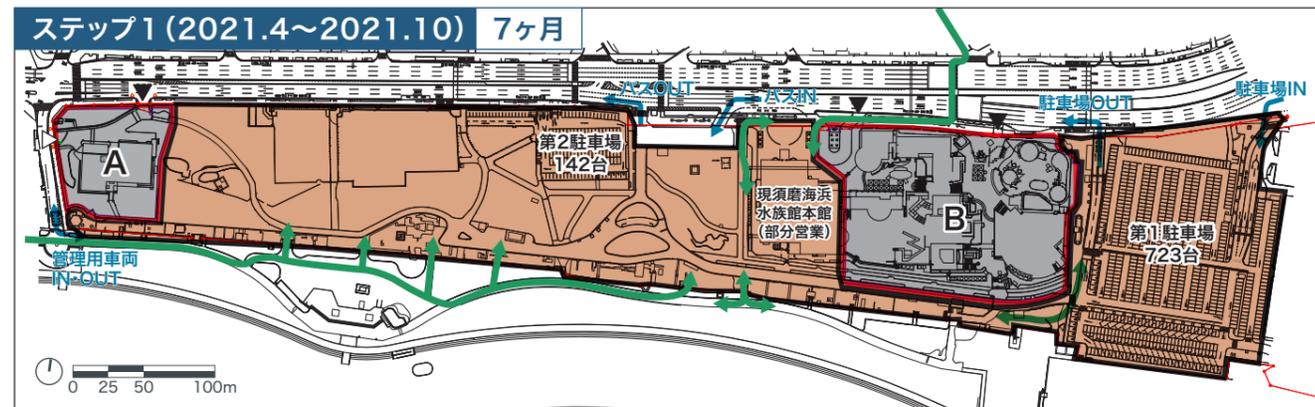
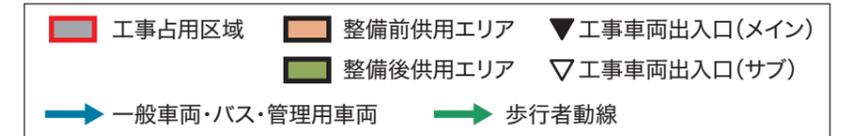
施工計画における方針

海浜公園への配慮

- ① 施工期間中については、常に園地の一部を開放し、市民の公園利用を維持します。
- ② 施工期間中の歩行者動線は、工事車両動線と交錯しないように計画し、工事車両出入口に警備員を配置します。また工事占用区域と公園利用可能区域の間に仮囲いを設置し、安全に区画します。
- ③ 公園利用者に対して、適切な仮設通路、誘導案内を行います。
- ④ 騒音・振動計を設置し、適切なモニタリングをすることで周辺の環境に配慮します。
- ⑤ 国民宿舎須磨荘（シーパル須磨）跡地に多目的グラウンドを先行整備し、機能を移転することで常に市民スペースを確保する計画とします。

駐車場利用への配慮

- ① 駐車場工事は、駐車需要が高くなる海水浴期間を避け、2022年9月～2023年4月に実施します。
- ② 立体駐車場施工期間中は、平面駐車場を利用可能な状態として、必要駐車台数を確保します。
- ③ 駐車場利用者の車両動線と工事車両動線を分離し、既存の須磨海浜水族園本館や公園への歩行者動線を安全に確保した計画とします。



安全性や周辺環境、市民の公園利用に配慮した段階的な施工計画とします。

施工手順／工事占用区域／工事期間中の公園利用可能区域

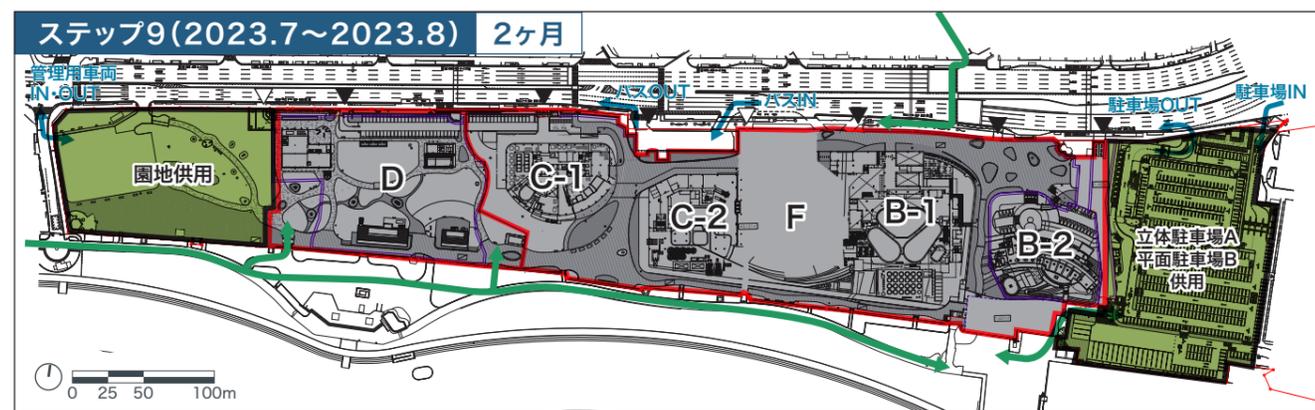
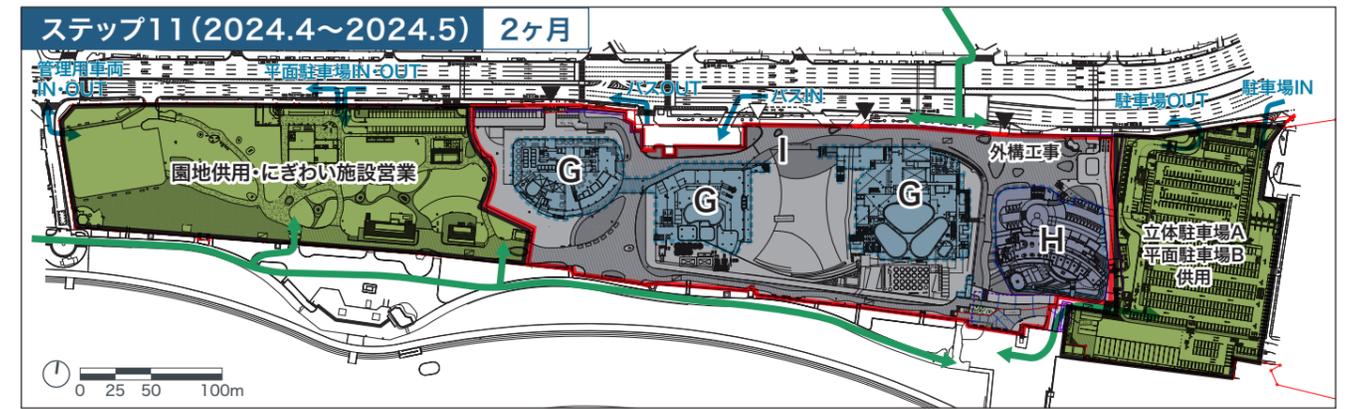
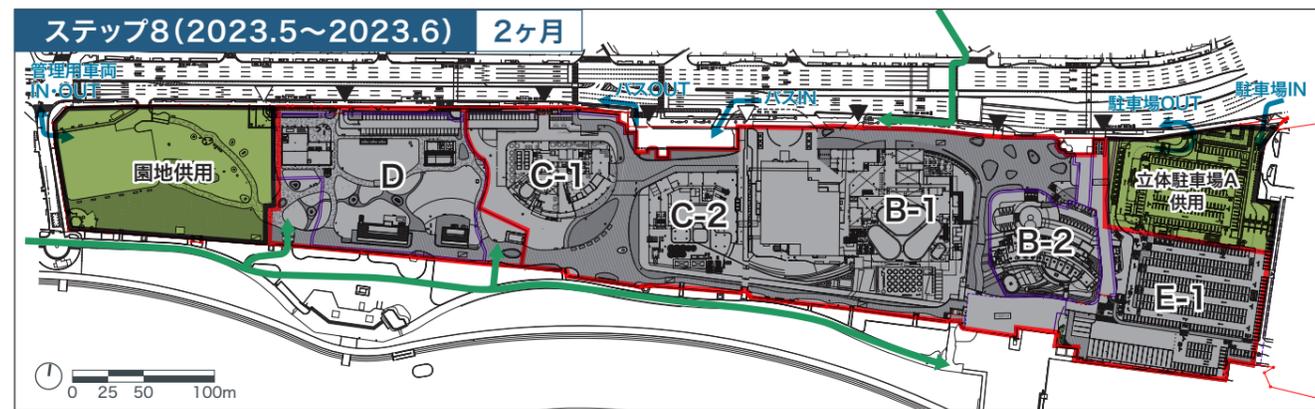
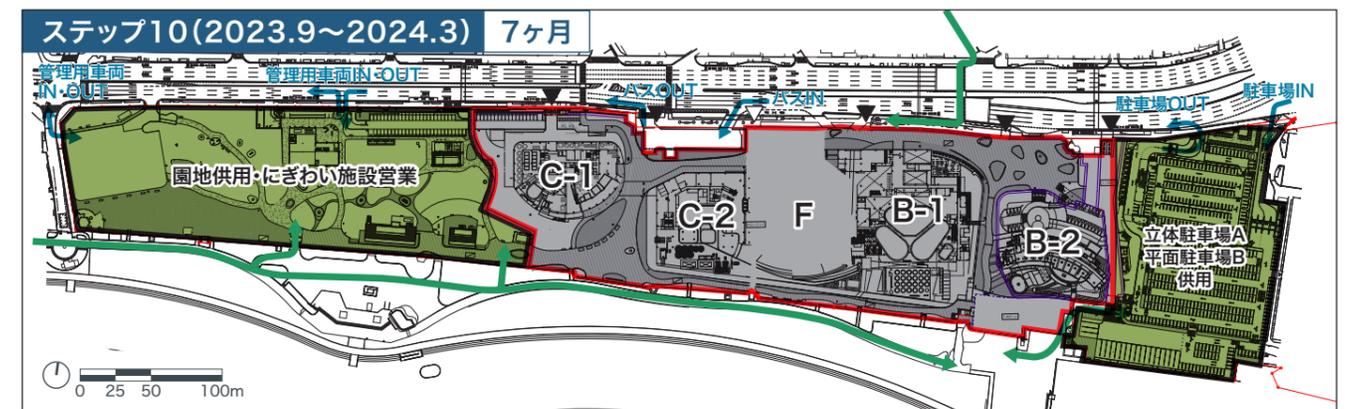
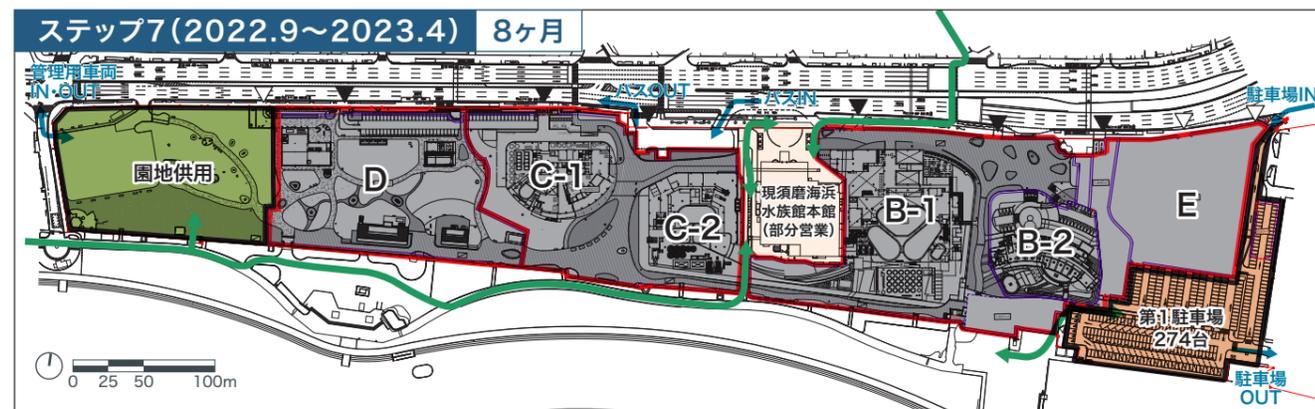
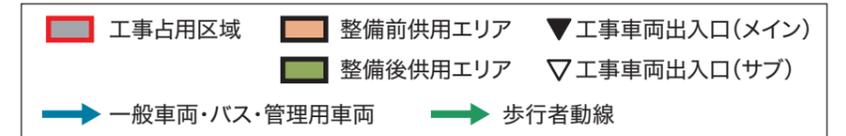
施工計画における方針

海浜公園への配慮

- ① 施工期間中については、常に園地の一部を開放し、市民の公園利用を維持します。
- ② 施工期間中の歩行者動線は、工事車両動線と交錯しないように計画し、工事車両出入口に警備員を配置します。また工事占用区域と公園利用可能区域の間に仮囲いを設置し、安全に区画します。
- ③ 公園利用者に対して、適切な仮設通路、誘導案内を行います。
- ④ 騒音・振動計を設置し、適切なモニタリングをすることで周辺の環境に配慮します。
- ⑤ 国民宿舎須磨荘（シーパル須磨）跡地に多目的グラウンドを先行整備し、機能を移転することで常に市民スペースを確保する計画とします。

駐車場利用への配慮

- ① 駐車場工事は、駐車需要が高くなる海水浴期間を避け、2022年9月～2023年4月に実施します。
- ② 立体駐車場施工期間中は、平面駐車場を利用可能な状態として、必要駐車台数を確保します。
- ③ 駐車場利用者の車両動線と工事車両動線を分離し、既存の須磨海浜水族館本館や公園への歩行者動線を安全に確保した計画とします。



公園① 松の保全・育成方針

松林を保全・活用・育成の3つのエリアに分け、松林のポテンシャルを活かした景観を創出します。

1-(3)-② 松の保全・育成方針

- 松の保全育成方針としては、①保全を中心に行うエリア、②松林の林床におけるアクティビティを誘導する活用エリア、③新植・移植を行う育成エリアの3つのエリアを設定して、保全・活用・育成を行います。具体的には海岸線と平行する海側の東西方向について、西側エリアは既存の松及び新植・移植による緑量感のある松林の景観を形成し、東側エリアは新植・移植による育成エリアとして新しい松林の景観を形成します。国道2号側についても、既存の松に加え、新植・移植を積極的に行うことで本公園全体が松林に包まれた計画とします。

- <凡例>
- 緑色 : 保全エリア
 - 赤色 : 活用エリア
 - 黄色 : 育成エリア
 - 赤点線 : 幅員20m、長さ300m以上の松林保全エリア



保全エリア

- 既存の松林を保全するエリア

活用エリア

- 既存の松林の林床を活用するエリア

育成エリア

- 育成エリアについては、新植と移植を行うことで、計画地全体を松林で囲む計画とする。



① 松林保全エリアにおける管理車両動線を兼ねるバリアフリーに配慮した園路



② 松林活用エリアにおける林床のアクティビティ(キャンプなど)

本数・保全割合(対象本数751本)

保全本数	526本
保全割合	70.0%
伐採本数	225本
伐採率	30.0%

松林クラブの設置・植樹イベントの実施

- 松林クラブを設置し、松林の維持管理や学校等への環境教育等、地域に根ざした活動を行うことで、松林の発展とともに、地域コミュニティの醸成に寄与します。
- 松の植樹イベントで松林の歴史を継承するとともに地元への愛着や世代を超えて何度も訪れる場所とします。



公園② 園路・広場計画

市民利用を妨げない「使いこなし」のできる広場を計画し、1年を通してイベントを開催します。

1-(3)-④ 園路・広場計画



A.コミュニティ広場



B.海の広場



C.クロッシングウォーク

広場・園路の概要

- 下記のA～Dの各スペースは、自由使用を原則とし、団体等による利用手続きについては、現状と同様の行為許可手続きを取るものとします。
- 貸し出しに際しては、ルール(貸出条件、BBQやスケートボードなどの禁止行為、審査基準など)を定め、管理します。

記号	広場名	面積幅員	舗装の仕様	特徴・付帯設備	用途・貸出利用例	
					有料	無料
A	コミュニティ広場	3,000㎡	真砂土舗装	電源設備や給排水設備を完備し、大規模なイベントにも対応可能	a.市民利用 ○フリーマーケット ○マルシェ b.企業・団体等利用 ○展示・商談会 ○ウォーキングフェスタ ○飲食等の各種イベント	○ラジオ体操
B	海の広場	1,000㎡	透水性コンクリート舗装、 インターロッキング舗装 デッキ舗装	電源設備や舞台ステージを計画し、小中規模のイベントに対応可能	a.市民利用 ステージを利用した音楽イベント、ダンスイベント、大道芸イベント b.企業・団体等利用 ○ビーチスポーツ大会	
C	クロッシングウォーク	3,000㎡	透水性コンクリート舗装、 インターロッキング舗装 タイル舗装	電源設備を完備し、マルシェイベント等に対応可能	a.市民利用 ○マルシェイベント(ナナ・ファーム須磨など) b.企業・団体等利用 ○キッチンカーイベント	
D	すまっこひろば	1,700㎡	芝生	基本的には地元の子供たちの公園としての機能を担う	a.市民利用 ○フリーマーケット ○マルシェ b.企業・団体等利用 ○フリーマーケット ○展示会・商談会 ○飲食などの各種イベント	○こどもの遊び場 ○ラジオ体操 ○太極拳等の愛好者
-	園路	18,800㎡	透水性コンクリート舗装、 インターロッキング舗装	歩行者エリア：t60 管理車両エリア：t80	• 管理車両動線について、最小幅4mを確保し、 搬入車両動線については幅員6mを確保します	

公園③ パークコンシェルジュ棟・須磨コレクション

一般公園利用者にも開かれた須磨ホールを整備し、歴史の継承や教育普及に資する施設とします。

パークコンシェルジュ棟(ビジターセンター、須磨ホール、須磨歴史ギャラリー)+須磨コレクション

目的・狙い

- 水族館と連続しながら、一般公園利用者に開放した無料ゾーンにパークコンシェルジュ棟を計画します。パークコンシェルジュ棟の1階には公園のビジターセンター(公園管理事務所)、天候に左右されずワークショップを開催できる須磨ホール(多目的スタジオ)、旧住友家須磨別邸等を紹介する須磨歴史ギャラリーを設置します。これらの一般市民に開かれたパークコンシェルジュ棟を計画することで、公共的付加価値の創出を図ります。

すまっこひろば

- パークコンシェルジュ棟とにぎわい施設の中心に「すまっこひろば(約1,700㎡の芝生広場)」を計画します。「すまっこひろば」は、周辺市民等の一般公園利用者に開かれた公園としての役割を担います。

ビジターセンター(公園事務所)

- 公園の利用案内や行為許可受付、イベントや周辺観光案内を行います。

須磨歴史ギャラリー

- 旧住友家須磨別邸の歴史や須磨海浜公園の成り立ちを紹介します。
- 工事において、旧住友家須磨別邸の遺構が発見された場合は、同ギャラリーでの展示も検討します。

須磨ホール(多目的スタジオ)

- 須磨ホール(多目的スタジオ)は、有料(市民利用の場合の割引制度あり)にて貸し出しし、地域コミュニティの創造・育成に貢献します。
- 貸し出しに際しては、ルール(貸出条件、禁止行為、審査基準など)をつくり、管理します。

【市民利用】

- 須磨松林クラブ活動 ・ 展覧会 ・ カルチャースクール
- コワーキングスペース(子育て世代向けカフェやスポーツ教室との連携)等

パークコンシェルジュ棟



パークコンシェルジュ棟 平面図



「すまっこひろば」からパークコンシェルジュ棟を望む

パークコンシェルジュ棟

- 海浜公園の中心に、パークマネジメントの拠点となるパークコンシェルジュ棟を配置します。

【ビジターセンター(公園事務所)】

- パークコンシェルジュが駐在する公園事務所で、公園の総合案内(多言語対応)や行為許可の受付、周辺エリア観光案内、コミュニティ活動(須磨松林クラブ)のサポートを行います。

【須磨ホール(多目的スタジオ)】

- ヨガ、コーヒー体験、ワークショップなど地域住民が様々なクラブ、コミュニティ活動に利用できる多目的なフリースペースです。天候に左右されず、公園を使いこなすことができます。

【須磨歴史ギャラリー】

- 旧住友家須磨別邸の歴史を紹介するスペースです。

須磨コレクション

- 水族館(神戸須磨シーワールド)の1階外向きに、既存の須磨海浜水族園の魚類の一部(ピラルク、ガー、チョウザメなど)を無料展示する須磨コレクションを設け、市民へ広く開放します。



須磨コレクション

公園④ 動線計画(歩行者)

周辺と連続し、公園利用者が安心・安全に楽しく回遊できる海浜公園とします。

事業区域内の主要動線(歩行者)、周辺との連続性について、バリアフリールート

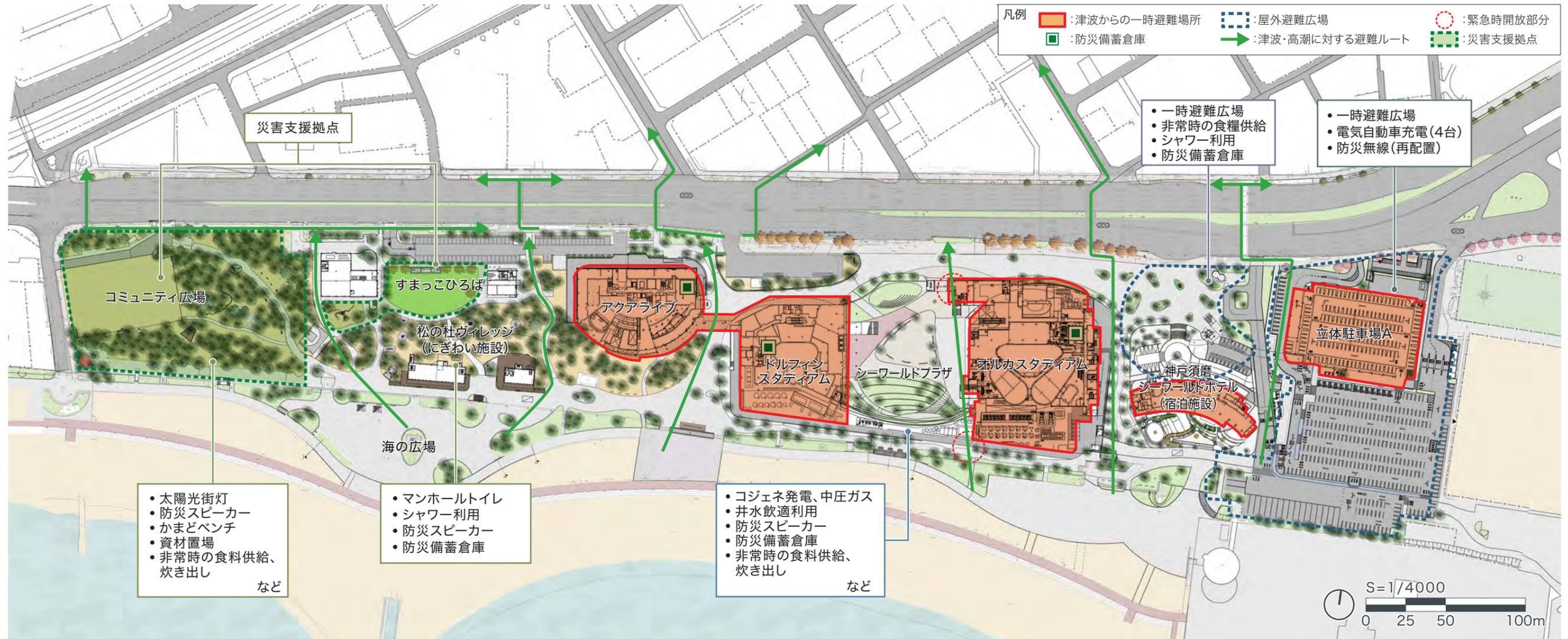
- 公園内に、単なる通路ではなく、海とのつながりを意識した通りとなるような多様な通路を設け、誰もが松林や海辺の散策を安全に楽しむことができるよう自由な回遊動線とします。
- 園路内は、車いすでの通行にも配慮した透水性コンクリートによる舗装や松の林床仕上げを行い、バリアフリーに回遊できるものとします。車いすなどを利用される方が車(自家用、団体バス、車いすタクシー)で来られた際の安全な動線を確保し、移動円滑化の配慮、安全な舗装材の選定を行います。
- 各所に滞留空間や広場を設け、それらを連続的につなぐことで、公園内におけるアクティビティが歩行者動線上にドラマチックに表出することを目指します。
- 津波など災害時には、北側(山側)へ迅速に避難できる経路(南北動線)を設定します。また、神戸須磨シーワールド内にも、災害時に開放される非常ゲートを設けることで、避難経路を更に短縮します。
- JR須磨駅、JR須磨海浜公園駅等、主要アクセスや須磨ヨットハーバー、若宮商店街等の周辺施設との連続性を高めた動線計画とします。



公園⑤ 防災の考え方

阪神・淡路大震災の教訓を活かし、液状化対策工法、中圧ガスやコージェネによるBCP機能、綿密な避難計画、管理運営体制を構築し、地域防災性向上に貢献します。

防災の考え方



屋外緊急避難場所として発揮できる機能

想定する災害と避難時の施設利用

津波時

- 避難用の南北動線を一定間隔で複数個所に適切に確保します。
- 水族館の有料ゾーン区画は災害時には直ちに開放し、安全な避難経路を確保します。
- 万が一、逃げ遅れた方のために、ドルフィンスタジアム・オルカスタジアムのスタンドなど(高所)を開放し、屋外緊急避難場所として提供します。

地震時

- 阪神・淡路大震災時に須磨海浜水族園及び公園が果たした役割を継承し、災害時には水族館内のスペースを近隣の学校の臨時教室として開放します。
- 広場や駐車場は、屋外一時避難広場として開放します。

公園⑥ イベント実施目標・KPI

年間を通じてイベントやPRを実施し、多くの人が集い、愛される海浜公園を目指します。

イベント・プログラム等の年間開催数、スケジュール、実施目標・KPI

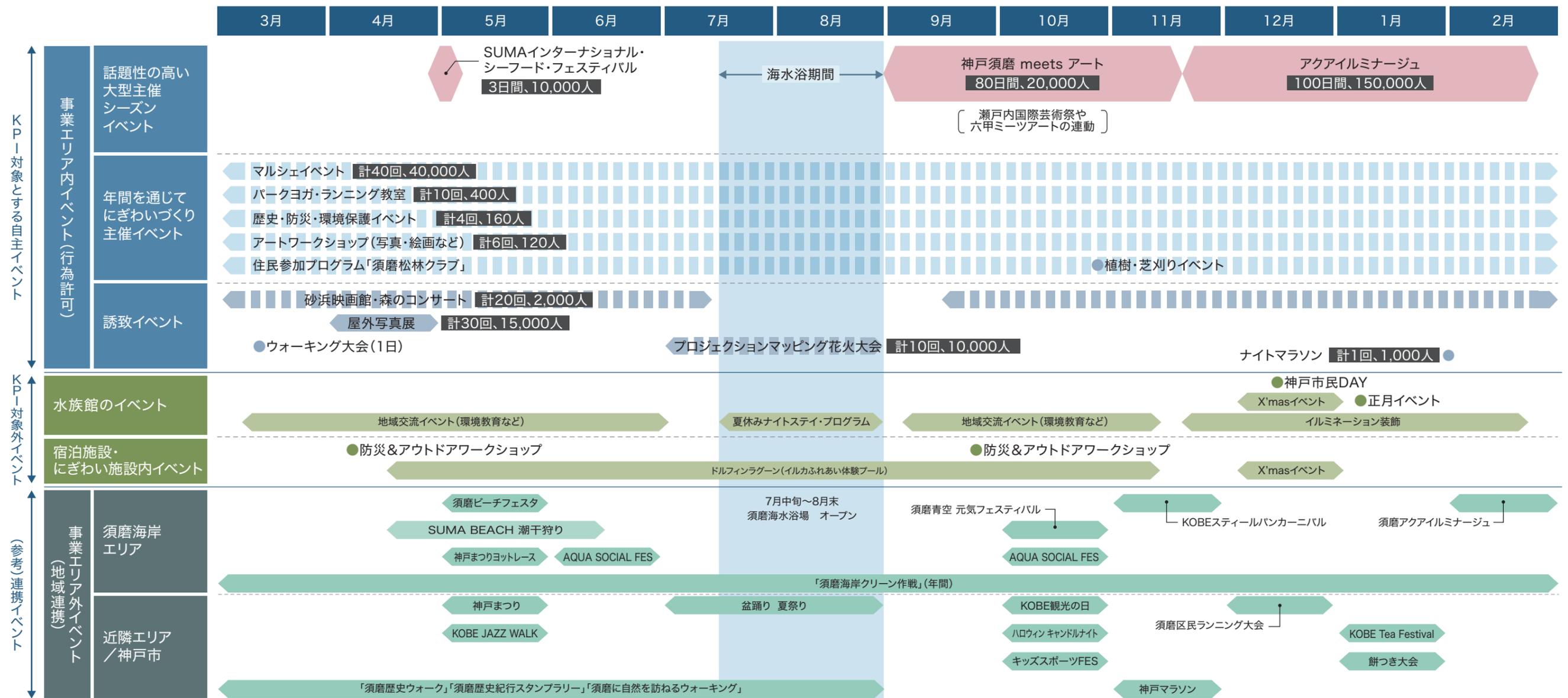
- 公園エリア内での自主開催イベントや誘致イベントの他、周辺で開催されるイベントへの協力サポートなども含め、年間を通じて数多くのイベントを実施することで、須磨海浜公園の集客を高めるとともに、国内外での認知度を高めて国際観光拠点を実現します。

イベント・プログラム等の実施目標・KPI

事業エリア内	大型主催イベント	183回 (180,000人)	イベント 開催回数KPI 年間 計305回	イベント 集客数KPI 年間 計24.9万人
イベント	主催イベント	60回 (40,680人)		
	誘致イベント	62回 (28,000人)		

一般公園利用とのバランスについての考え方

- 特定公園施設は、365日・24時間、誰でも自由に利用できる公園として開放します。イベントなどで特定公園施設を占有する必要がある場合は、神戸市都市公園条例で定める行為許可基準に基づき、占有区画を制限・規制して、一般公園利用者の通行や利用の妨げにならないよう十分配慮します。
- 本事業区域内に、ラジオ体操やレクリエーション、保育園などの運動会を行うためのスペースを確保し、工事中及び再整備後も従来の市民利用が継続できるように配慮します。
- 新たに人を呼ぶだけではなく、現在の公園利用者のニーズにも対応したイベントを実施いたします。



にぎわい施設 全体コンセプト／業種・業態

公園の松林や海岸の景観に溶け込むように分棟配置します。

全体コンセプト・考え方／業種・業態

- ・ベーカリーカフェ、スポーツショップ、スポーツ教室、スペシャルティコーヒーストア、シーフードレストラン、BBQカフェ、パークコンシェルジュを分棟形式で、村（ヴィレッジ）として寄り添うように配置し、公園のにぎわいを演出します。
- ・公園の松林や海岸の景観と調和し、かつその景色を施設内に取り込めるような配置計画とします。
- ・すまっこひろば（芝生広場）、テラス、子供の遊び場など設け、外部空間を活用した施設計画とします。
- ・ラジオ体操の後に、カフェで語らうなど、これまでの公園利用層に対する利便性・サービス向上を図ります。



ヴィレッジ A 棟

ベーカリーカフェ／スポーツショップ／スポーツ教室／スペシャルティコーヒーストア

- ・子育て世代がくつろげる場を提供するカフェやスポーツ教室を展開する複合施設をつくり、公園の利便性と通年利用性を向上します。

ヴィレッジ B 棟

海辺のレストハウス

- ・海の広場に面して、須磨海岸の眺望や鉢伏山の夕陽、希望の椰子が満喫できるロケーションレストランをつくり、市民や観光客に上質なメニュー（フード&ドリンク）と心地よい時間を提供します。
- ・建物は既存の松の木に沿って配置された平屋建てで、デッキテラスを併設します。

ヴィレッジ C 棟

BBQカフェ

- ・松の柱に溶け込むように、BBQ料理が楽しめるカフェレストランとします。



海の広場とにぎわいB・C棟



ヴィレッジA棟
(子育て世代向けカフェ・物販・スポーツ教室の複合店舗)



ヴィレッジB棟
(海のまちに佇むポートハウスをイメージしたシーフードレストラン)



ヴィレッジC棟
(地域とつながりが生まれるBBQカフェ)

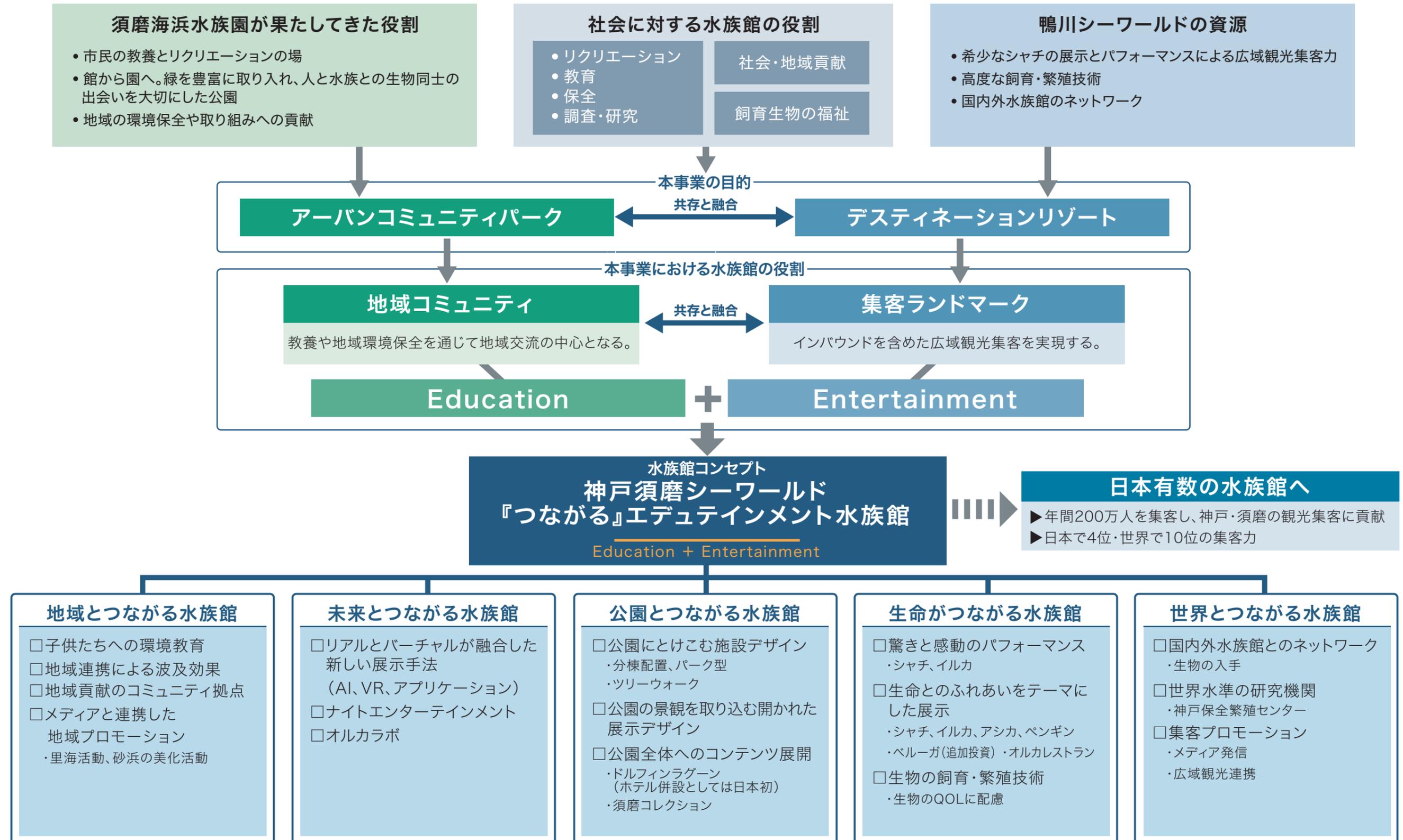


すまっこひろばを取り囲むヴィレッジ

水族館① 基本方針

『つながる』エデュテインメント水族館を全体コンセプトとして、日本有数の水族館を目指します。

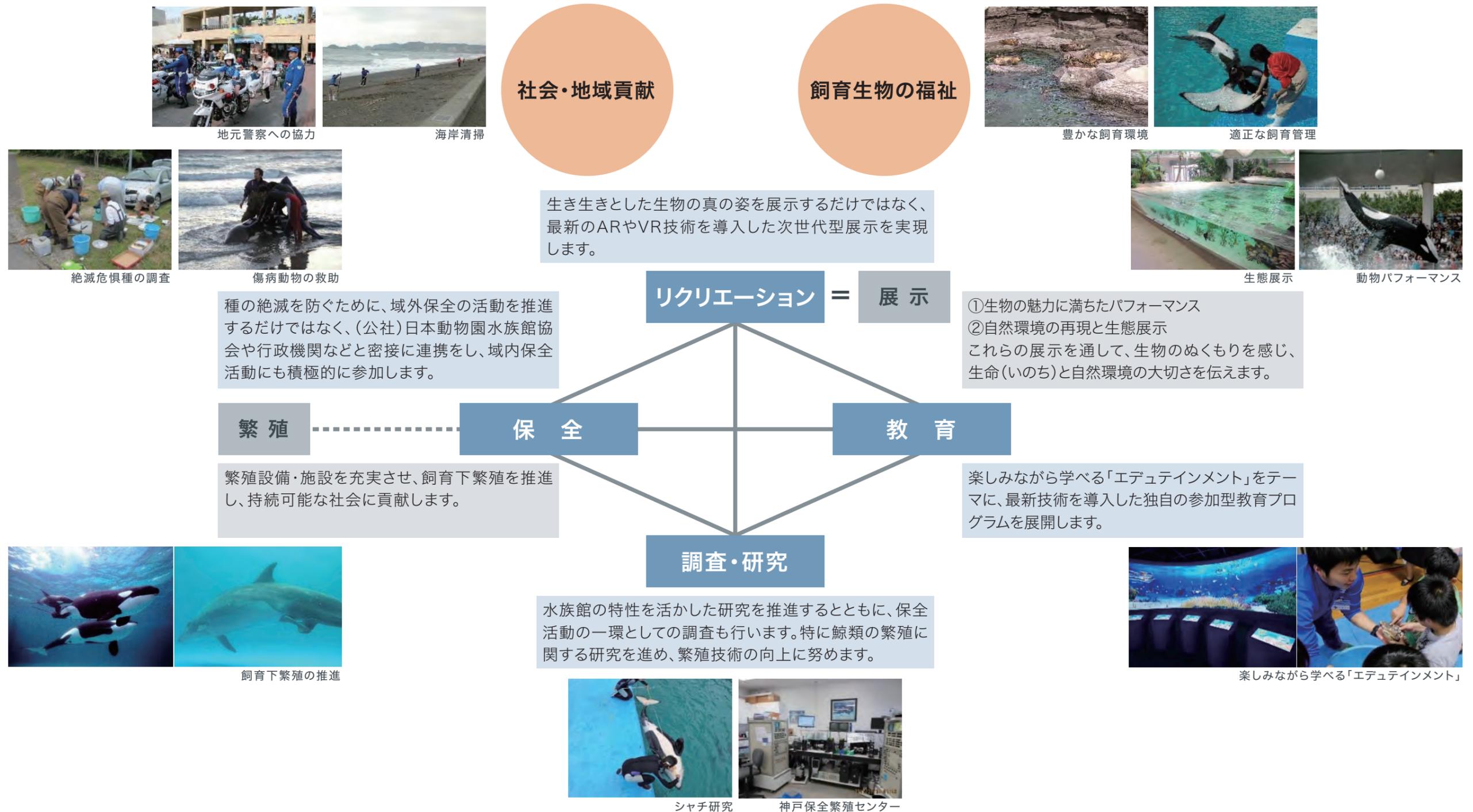
全体コンセプト：『つながる』エデュテインメント水族館



須磨海浜水族園は世界に先駆け、次世代の水族館へと生まれ変わります。

社会に対する水族館の役割についての考え方

社会に対する水族館の役割は①リクリエーション、②教育、③保全、④調査・研究の4つであり、それぞれのバランスで水族館の特性が決まります。
神戸須磨シーワールドでは、様々な社会情勢を踏まえ、4つの役割を包括する『飼育生物の福祉』の考えを拡充した上で、各役割を本事業でしか実現できない次のステップへと進化させます。



水族館② 展示計画

オルカスタジアム(シャチ棟)

オルカスタジアム

① パフォーマンス

- ダイナミックなシャチの運動能力と形態を紹介するとともに、トレーナーとの交流を通し、感動を伝えます。繁忙期などには独自の演出手法を用いたスペシャルパフォーマンスを行うなど広がりをもったパフォーマンスを展開します。



② オルカテラス

- シャチの近距離での観察を通して、シャチの質感や迫力を体感できます。
- カフェのように軽食をとりながら、間近でシャチパフォーマンスを観覧することができます。

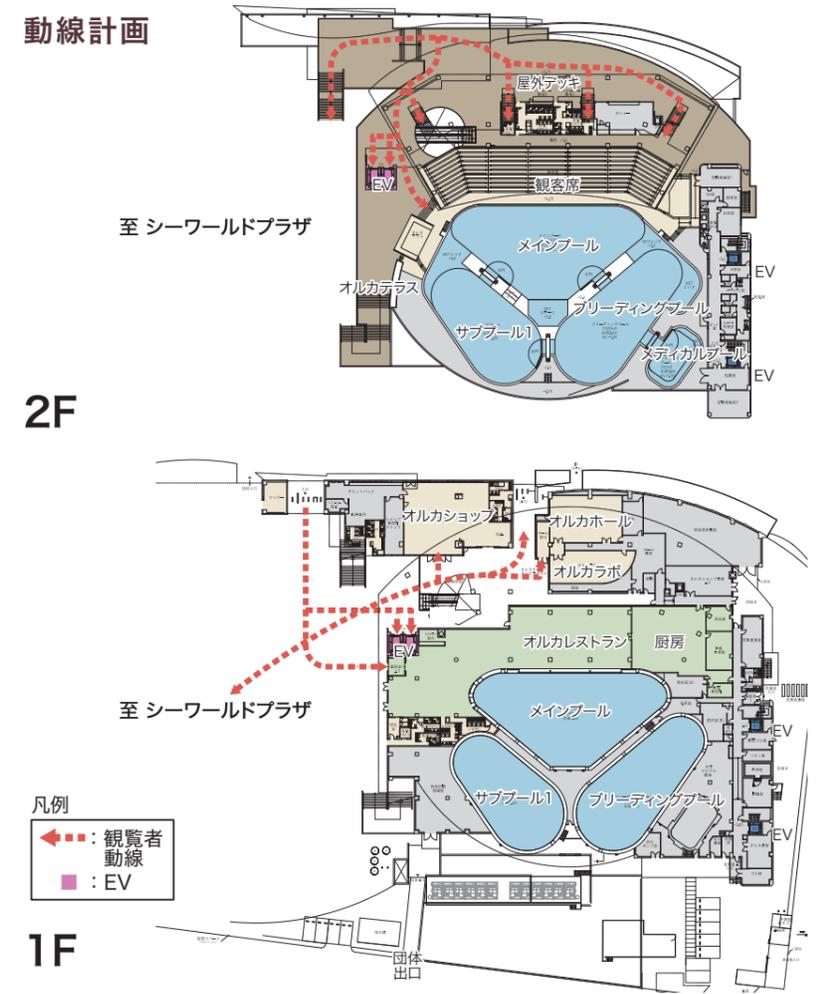


③ オルカラボ(世界初)

- 最新デジタルツールを利用した世界初のシャチに関する教育ゾーンです。生物学的情報の提供だけでなく、オホーツク海におけるシャチの生態調査の最新データを紹介する場とします。



動線計画



④ オルカホール

- 教育活動に資するホールを設置し、会員用学習会などの教育プログラムなどに使用します。

⑤ オルカレストラン(西日本初)

- シャチを見ながらの食事は、西日本初のリクリエーション体験となります。



ドルフィンスタジアム

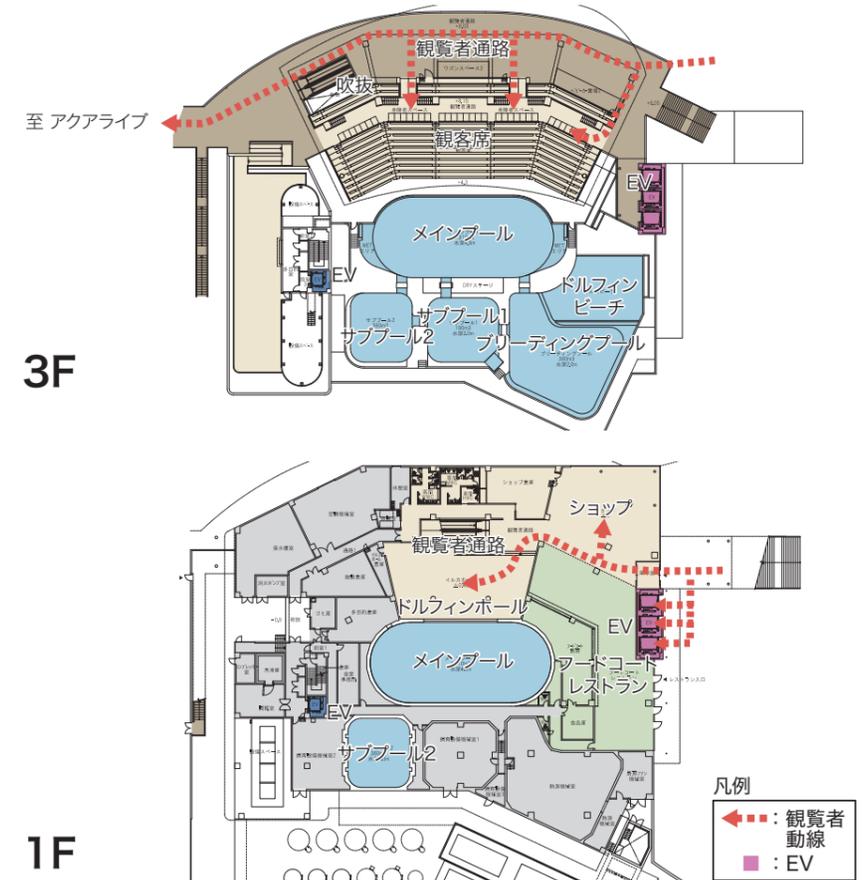
①パフォーマンス

- イルカのスピーディーな運動能力を紹介するとともに、トレーナーとの交流を通し、感動を伝えます。繁忙期には、独自の演出手法を用いたスペシャル・ナイトパフォーマンスを行います。



内部動線計画

- ドルフィンスタジアムにはシーワールドプラザとアクアライブをつなぐデッキが接続し、スタンド裏側デッキからフラットにメインプールレベルに出ることができます。パフォーマンス終了時に渋滞を引き起こさないように、デッキと接続する箇所には大きな空間が配置されています。



②ドルフィンホール



- 1階のドルフィンホールはイルカの生態を間近で観察できる空間とします。
- 10m以上ワイドに伸びた水槽の前で、イルカを観察しながら休憩することで、メインプール水面から落ちる木漏れ日と合わせてイルカと海を漂うような没入感を感じることができる非日常空間を創出いたします。

③ドルフィンビーチ



- ドルフィンビーチでは直接イルカとふれあえるプログラムなども行います。
- 給餌体験やふれあいを通して生物のぬくもりを肌で感じることができ、人と生物をつなぐ役割を果たします。



アクアライブ 展示コンセプト・動線計画

コンセプト

アクアライブ

1・2・3階
7つのゾーンからなる魚類展示エリア
「水の一生」とつながり、体験する水族館

展示空間の構成

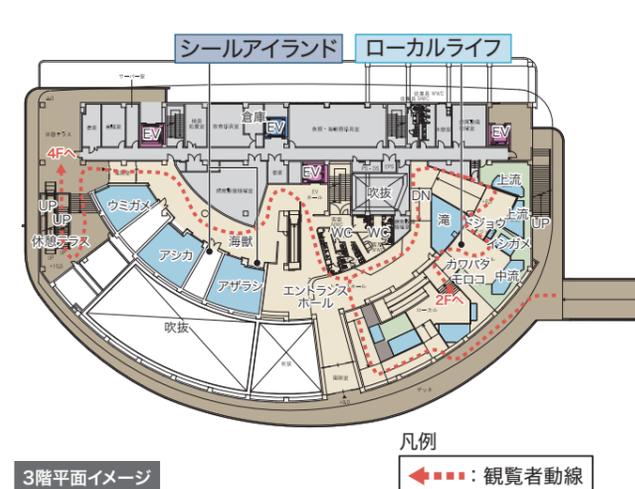
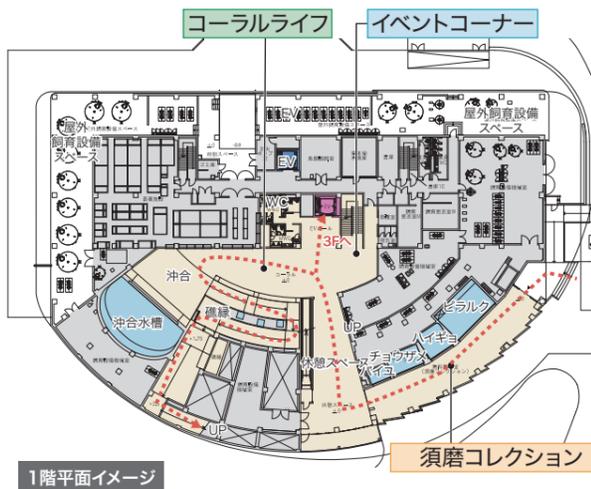
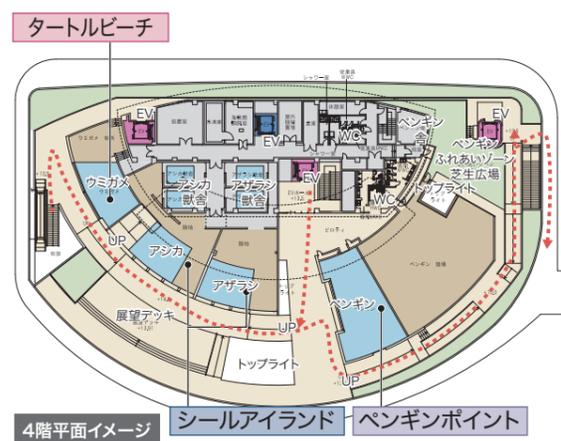
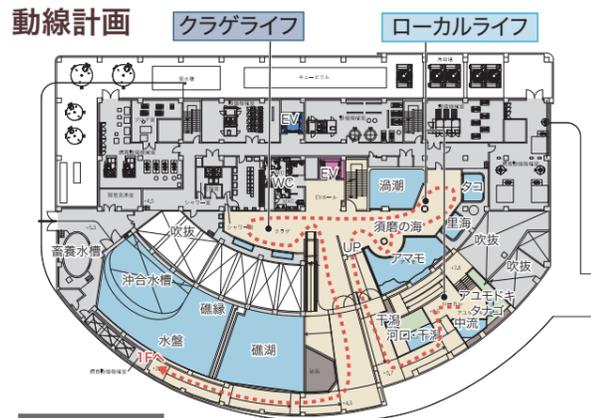
おおらかにつながる3層の大空間に「水の一生」をテーマとした7つの展示空間を設けます。指定の順路を設けず、7つのゾーンを自由に行き来することで、水と関わる生き物の多様な生活を体験できます。また、生物の長期飼育を見据え、展示替えが容易な小水槽のフレキシブルな展示ゾーンを設け、将来の可変性を持ち合わせた施設とします。

3・4階
5つのゾーンからなる海獣類・ペンギン展示エリア
動物たちが躍動する天空の島

展示空間の構成

アクアライブ屋上には、大きな岩山のような屋外空間を設けて、アザラシ・アシカ・ペンギン・ウミガメを展示します。砂・岩・植栽などの生息環境を再現し、のんびりとたたく陸上の姿や水中でのシャープな動きといった、生きものたちの多様で豊かな行動を観ることが出来ます。繁殖に適する十分なスペースを確保し、繁殖期には子供たちの姿を間近で観察できます。飼育員による解説やふれあい体験も実施します。緑におおわれた屋外スペースでゆったりと動物たちや須磨の海を見ながら過ごす憩いのひと時を提供します。

動線計画



展示の工夫

自由に回遊できるゾーン配置

- 各ゾーンを一方通行でなく行き来できる配置とすることで、パフォーマンスの時間などに合わせて、フレキシブルに回遊できる展示計画としました。
- 2階は屋外デッキに出られる出入口を複数設けることで、内と外のそれぞれを一体的に回遊できます。

休憩もできる屋上展望デッキ

- 3・4階は屋上展望デッキを広く設け、休憩もできる気持ちのよい空間とします。
- 屋上展望デッキと生物展示空間に効果的に緑化を施すことで、自然の中で観察しているような体験を演出します。

滞留を考慮した共用エリア

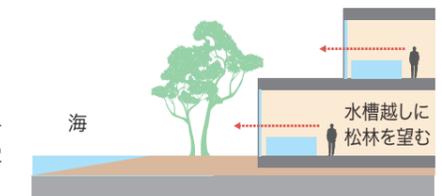
- 回遊動線の幅を広くするのはもちろん、各所にゆとりある「たまり」を設けることで、混雑時にも、対応しやすい共用エリアとします。
- イルカ・シャチのパフォーマンス終わりに一時的な混雑が予想されますが、大きく確保した屋外デッキが緩衝帯として機能し、混雑をやわらげます。

集客力を高める企画展示

- 常設展示とは別に、企画展示コーナーを設け話題のテーマを提供し集客力を高めます。
- 企画展示コーナーはエントランス付近に設け、アクセスしやすく、寄ってみたいくなる配置とします。

外部公園景観との一体的な展示

- アクアライブ南側は、公園と海に面しているため、大きく開口部を設けることで、水槽越しに松林を望むなど、外部公園景観との一体的な展示を実現します。



主な展示生物・神戸市から譲渡した生物で引き続き展示を予定している主な生物

須磨海浜水族園での展示生物の9割以上を継続し、更に西日本では見られないシャチやその他希少生物の展示を行います。継続展示指定生物の中でも、オーストラリアハイギョ、パイユウ、ロングノーズガー、ピラルク、チョウザメ等は無料展示として「須磨コレクション」にて公園に開放します。各棟での主な展示生物は、各展示エリアの概要(1)～(4)に記載しています。

	種	点
須磨海浜水族園	682	18,599
継続展示予定	522	17,000
比率	76.5%	91.4%

引き継ぎを予定していない生物に関しても、(株)グランピスタホテル&リゾートのネットワークを用いて、全ての生物に対して、適切な飼育環境をもつ施設への移動を行います。また、標本類についても保存状態などを確認した上で、引き継ぎや譲渡の計画を立て、生物と同様、調整を行います。

各展示エリアの概要(1)

■ローカルライフ(1～3階部分) -六甲水系・瀬戸内海の原風景を想う-

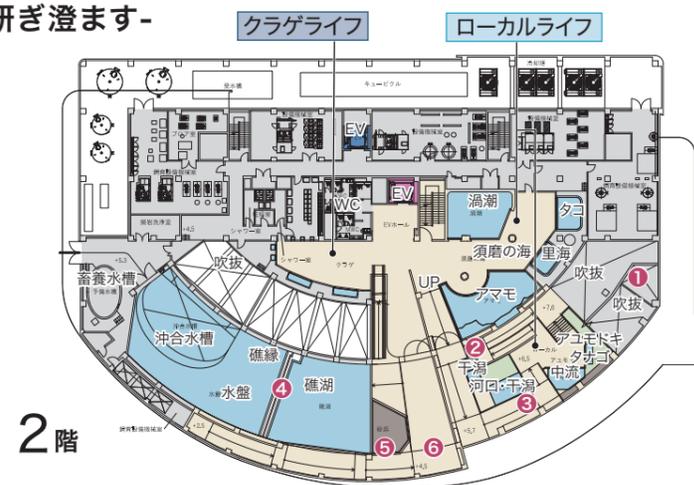
擬岩と植栽で再現された六甲水系の河川(上流～河口)の生態系を展示します。瀬戸内海を象徴する生態系として巨大な「アマモ場」を再現し、瀬戸内海の豊かな自然、神戸・須磨の原風景に想いを馳せる空間をつくります。



■エントランスフォール -生命の滝が五感を研ぎ澄ます-



生命の起源を象徴し「水の一生」への入口となる迫力のある滝を設け、五感に訴えかける導入空間をつくります。



2階 主な展示生物



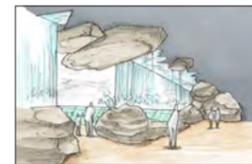
■コーラルライフ(2階部分) -太平洋・サンゴ環礁を旅する-

ヤシやアダンなどの植栽や擬岩によってサンゴ環礁の自然を再現、カラフルな熱帯魚類を紹介し、近年消滅の危機に瀕するサンゴ礁の保全を伝えます。



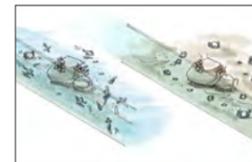
展示の工夫

① 流れ落ちる滝の飛沫や音



環境演出に留まらず、滝つぼの様子を観察できたり、激流の岩陰に身をひそめる川魚を観察できます。

② 変化する水位



川や干潟の水位変化を再現することで、魚類の多様な行動を観察できます。干潟も同様に水位変化させ、現れる生き物やその動きを引き出します。

③ 汽水域・塩水くさびの再現



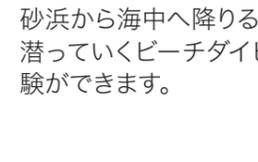
同一水槽内で上部に淡水、下層に海水を分離した状態で展示し、塩水くさびの状態を再現し、2層を行きかう魚類を観察できます。

④ 造波装置による礁湖・砂浜の波



造波装置により、穏やかな波に揺られる礁湖内の生き物のいる自然環境を再現し、来場者には波打ち際の憩いのひと時を提供します。

⑤ 砂浜から海中に降りていくスロープ



砂浜から海中へ降りるスロープを設け、次第に海中に潜っていくビーチダイビングをしているかのような体験ができます。

⑥ 自然採光と本物のヤシの木

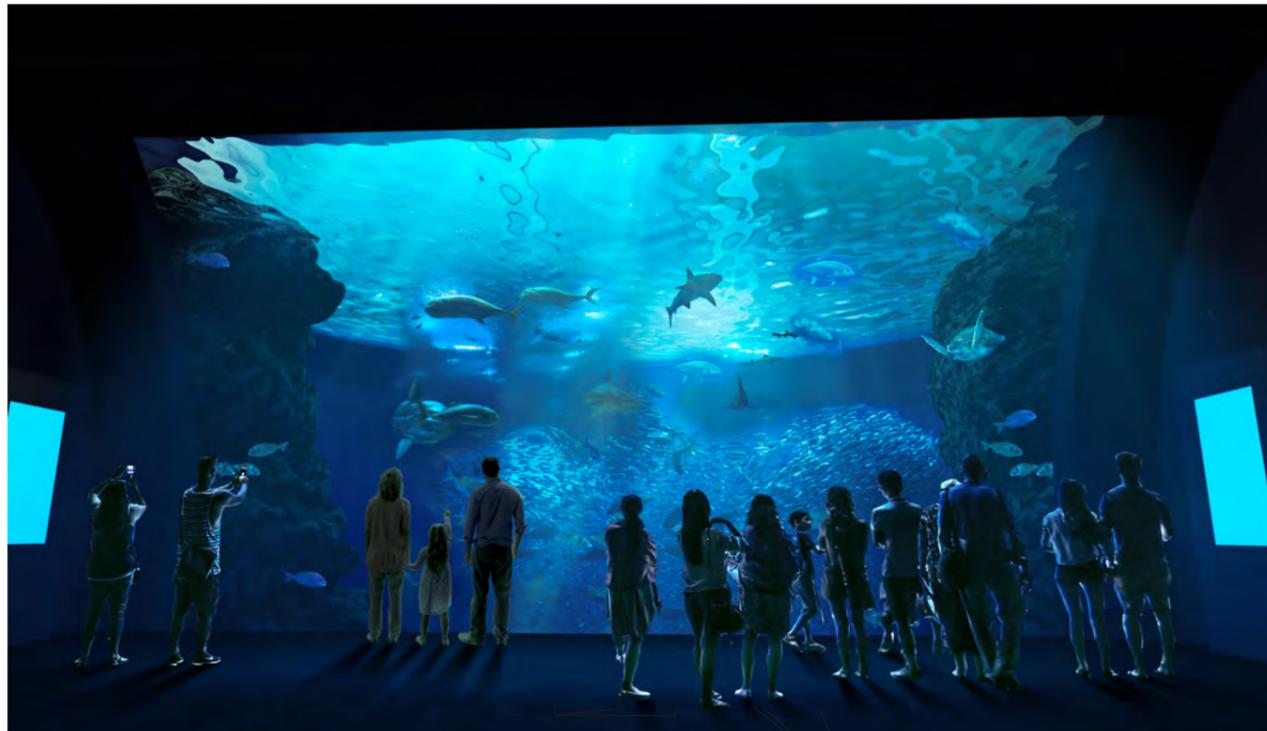


トップライトからの自然採光により、本物のヤシの木の育成を可能とするほか、海の波打ち際の煌めく光をつくり出します。

各展示エリアの概要(2)

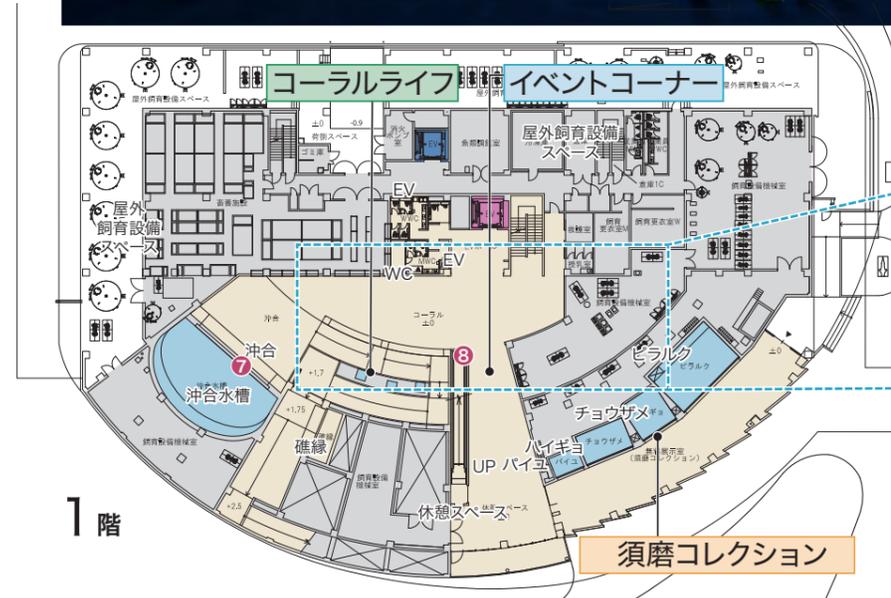
■コーラルライフ -太平洋・サンゴ環礁を旅する-

メイン水槽となる水量700tの沖合水槽の周りにはスロープを螺旋状に配し、砂浜から水中、海底へとまるで水中散歩をするような体験ができます。



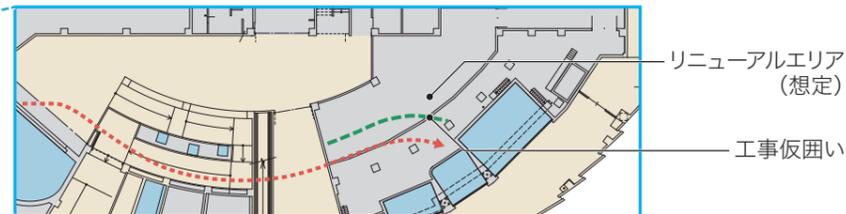
■企画展示・イベントスペース -生物にふれ、いのちの未来を考える-

実験コーナー: 須磨水族館からの伝統である「実験手法」を継承し、水生生物の生態を紹介します。
生物多様性コーナー: 希少淡水魚の展示を中心に、地域の生物多様性の重要性を発信します。
タッチングプール: エイやサメなどにふれたり、給餌ができます。

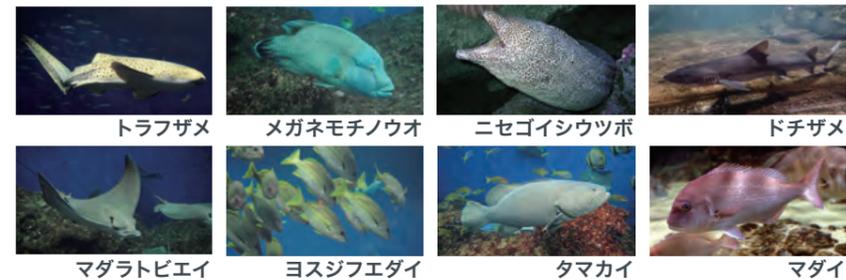


展示のリニューアルに適した施設計画

コーナーとして展示の雰囲気を演出しやすく、リニューアル時の仮囲い設置中も展示計画、順路を邪魔しない施設計画とします。

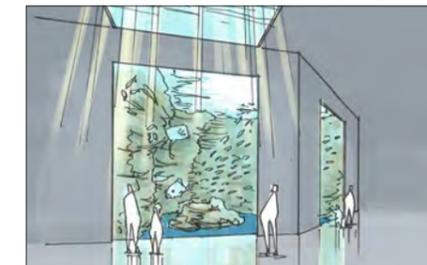


主な展示生物



展示の工夫

⑦ 天井水槽を見上げる波打ち際の裏側



礁縁の上部をオーバーハングさせて、波打ち際を下側から見上げる視点により、煌めく光で海中の幻想的な世界を演出します。

⑧ 登ったり座ったり! 磯のタッチングプール(企画展示)



屋内外が繋がった磯のタッチングプールは、子供たちが自由に登ったりしながら、磯の生物とふれあうことができます。

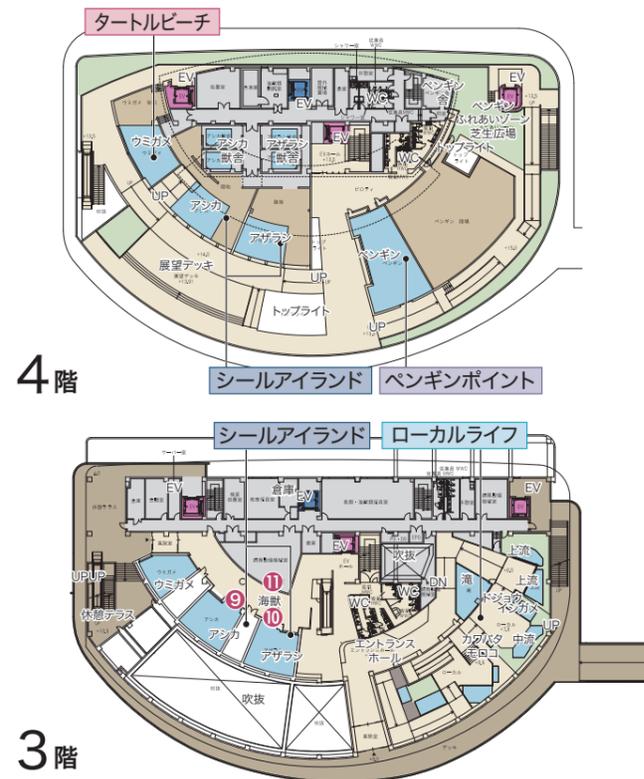
■クラゲライフ -浮遊する神秘に会う-

海底ホールに隣接して、クラゲを落ち着いて鑑賞する空間を設けます。クラゲの浮遊感と神秘性にふれながら、癒しの体験ができます。

各展示エリアの概要(3)

シールアイランド

最上階にはアザラシとアシカのための陸場と水槽をそれぞれ設け、岩場に寝そべる愛らしい姿や、ジャンプ台やのぞき穴で見せる豊かな表情を観察できます。3階には、アザラシとアシカが気持ちよく泳ぐ姿を見られる水中展示面を設けます。両水槽を対面配置することで動物同士の視覚刺激の多様化を図ります。



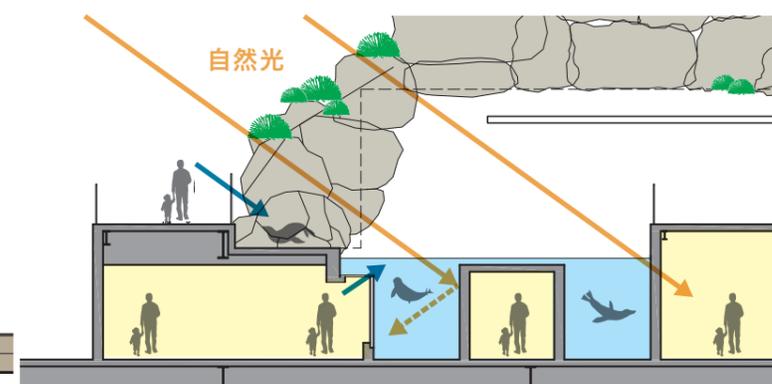
展示の工夫

⑨ 吹抜け水槽によるアシカ・アザラシの上下移動

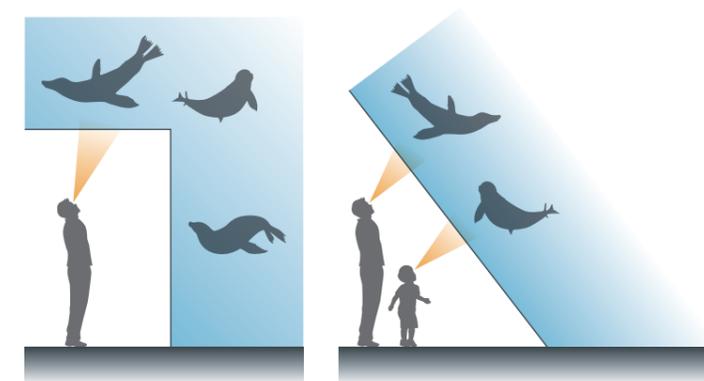
アシカやアザラシなど海獣類の愛らしい姿を引き出すためアクアライブ3、4階に吹き抜けた水槽を設けます。

⑩ 自然光による採光

松林に浮かぶ最上階では、水槽を介して3階にも自然光が差し込み海中を海獣類と漂うような没入感を生み出します。



⑪ 様々な角度から観察できる水槽



吹抜水層では天井水槽や傾斜水槽によって、あらゆる角度で観察できることから、水の中での生物との出会いの偶発性を表現しています。

主な展示生物

アザラシ



アシカ



各展示エリアの概要(4)

ペンギンポイント

マゼランペンギンが生息する南米プンタ・トンボをイメージした緑あふれる草原の丘をつくります。地中に巣穴を設け、ペンギンが本来暮らす環境を忠実に再現することで、子育ての風景などを観ることができます。



展示の工夫

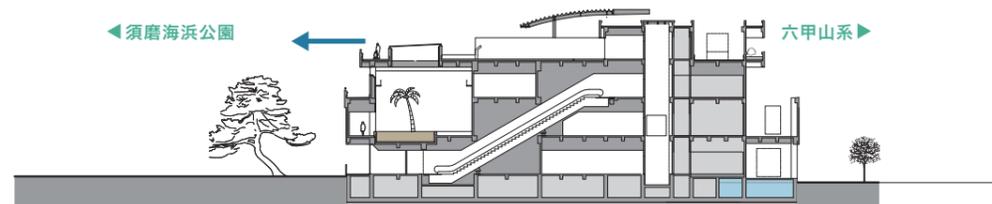
⑫ ペンギンの住処に足を踏み入れる



ペンギンが飛ぶように泳ぐワイドの水槽に加え、陸上部から来場者がペンギンの暮らす海岸に近づき、間近で観察できます。

美しい景観と融合した展示計画

4階 屋上デッキにてペンギンが散歩し、松林の上を浮遊するようなペンギンが見られます。



タートルビーチ

岩山をのぼるスロープに沿って設けられたウミガメのプールでは、ウミガメの目線で水中行動を観察ができます。淡水ガメが泳ぐ池では観覧者が水槽の中に入り込み、様々な角度からカメの生態を観察できます。



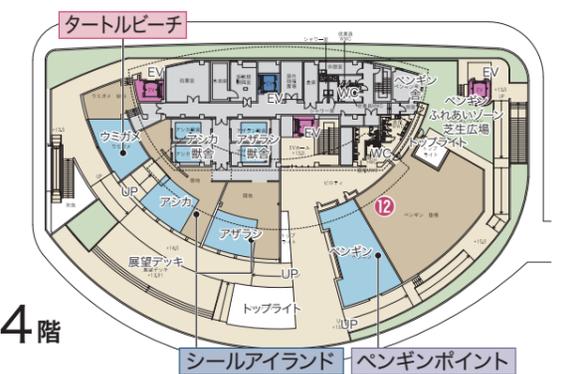
主な展示生物

淡水ガメ

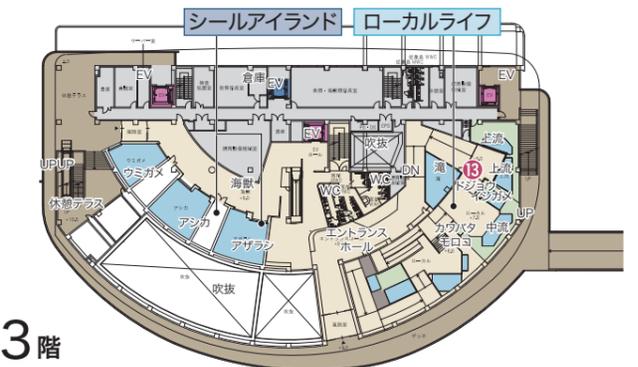


⑬ カメをいろいろな視点で観察

水槽の中を泳ぐカメ、陸上にたたずむカメ、いろいろな視点でカメを観察できます。



4階



3階

水族館③ 飼育・研究・生物収集計画

地域漁協や他園館との連携、高度な繁殖技術により生物の収集に努め、最先端の飼育環境をもって生物のエンリッチメントに配慮します。

飼育方針

生物の福祉を尊重し、適正な飼育環境を実現します。

飼育環境

飼育環境についての考え方

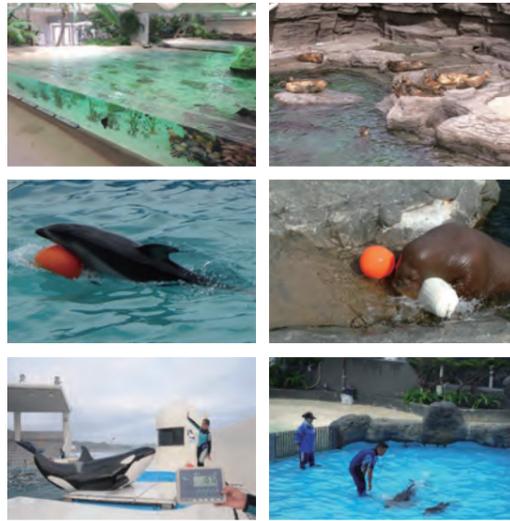
「生物の福祉」をテーマに、より豊かな飼育環境を追求していきます。飼育生物の福祉に十分配慮し、生理・心理・行動・社会を十分に検証した飼育環境のもとで、適正な飼育管理を実施します。

エンリッチメント

生物の物理的・社会的環境を変化させ、飼育環境や行動を豊かにし、生物のQOLを常に配慮します。

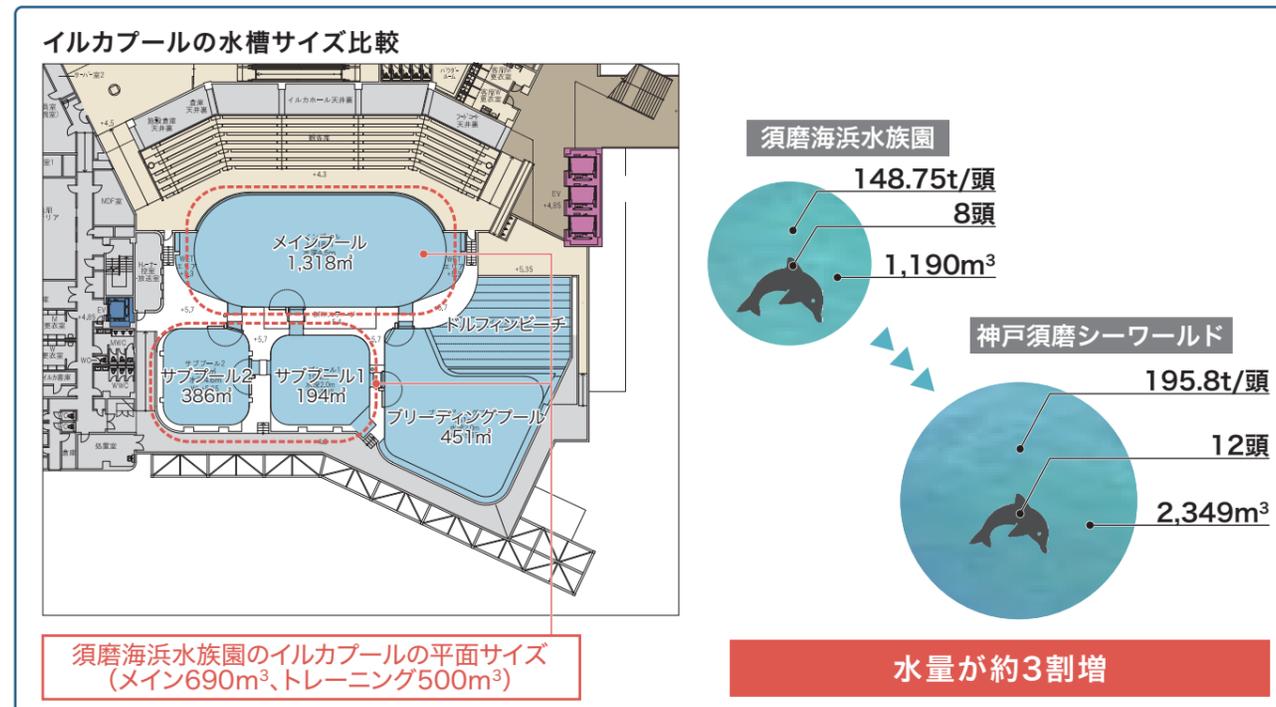
健康管理

トレーニング技術を応用し、ハズバンドリートレーニング(受診動作)による健康管理を実施します。



生物にとってQOLの高い飼育施設

動物の福祉に十分配慮し、生理的、心理的かつ社会的に健全な飼育環境のもとで、適正な飼育管理を実施します。特に鯨類の飼育施設に関しては、近年の飼育施設が縮小化する傾向に異を唱え、十分なスペースを確保いたします。可動床(昇降床)を設置したプールを併設し、医療体制を充実させます。この施設は、保護した傷病動物の治療にも利用します。



施設としての主な研究テーマ、研究成果の展示への活用

施設としての主な研究テーマと展示への活用

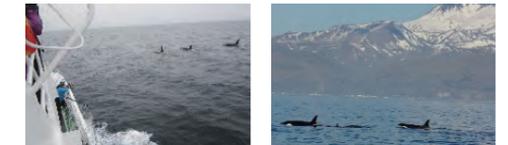
神戸須磨シーワールドでの主な研究テーマ

・須磨水域の研究から世界での最先端の研究まで幅広く行い、社会に貢献いたします。

①絶滅危惧種の域内・外保全(須磨海浜水族園の継承)



③知床シャチ研究プロジェクト



②繁殖研究



研究成果の展示への活用

・鴨川シーワールドでの繁殖活動や保全・保護を通じた研究成果の活用を行い他では見られない魅力的な展示計画とします。



生物入手方法の方針

購入に偏重せず自家採集や交換、特に繁殖を中心とした収集を目指します。

生物収集計画(コレクションプラン)の策定

展示計画と種の保存、文化・学術的価値などに関する評価をもとに飼育すべき種を選定し、管理計画を策定します。飼育下個体群の維持は野生からの導入に頼るばかりでなく、繁殖や他園館との交流などを基本に推進します。自然界から入手する場合は、生息数評価を基本とした適正に管理された方法など環境への配慮と持続可能性を優先して行います。



水族館④ 保全活動への取り組み

神戸保全繁殖センターでの研究をはじめとする世界トップレベルの研究や地域固有種の保存等、幅広くレベルの高い研究活動を行います。

鯨類の入手について

繁殖を通じた飼育下個体群の維持・管理を進めます。

入手方法の変化

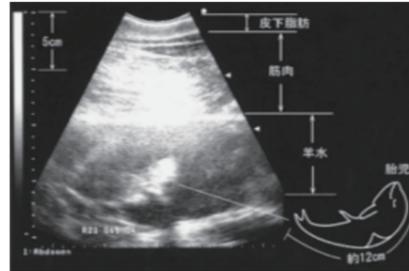
(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)による、追い込み漁からの入手の中止及び混獲イルカ類所持の制限により、人工授精を含めた繁殖推進による個体群維持への早急な対応が迫られています。

繁殖・育成環境の整備

妊娠、出産から育児を通じた母子の飼育管理のための専用施設を用意し、積極的な対応が可能な環境を整えます。

共同管理

国内のイルカ飼育園館の協力のもと、個体移動を含む個体群管理(共同管理)への取り組みを加速させます。



神戸保全繁殖センター

動物の人工授精では世界的権威である、荒井一利を所長とする日本初の「神戸保全繁殖センター」を設立します。水生生物、特に鯨類の繁殖に関する研究を推進するとともに、精液の保存・選別を実施し、飼育下繁殖と人工授精技術の向上を目指します。これらの応用技術を用いて、関連施設とも協力し、欧米の水準を目指して、国内でのイルカ類の繁殖向上に貢献するとともに、海外の水族館とも協力し、シャチを含む飼育下個体群の確立を目指します。



バンドウイルカ



カマイルカ



シャチ



保全活動

行政機関と連携した保全活動により、公共の役割を担います。

保全・種の保存に関する取り組み

絶滅危惧種の生息域内保全

行政機関やNGOなどと協力し、絶滅危惧種の生息調査や生息地の整備などを行っていきます。



絶滅危惧種の生息域外保全

絶滅危惧種の繁殖を水族館で推進し、野生での「絶滅」に備えます。



アユモドキ



ホトケドジョウ



カワバタモロコ

傷病動物の保護

行政機関の要請により、座礁したり、混獲された傷病動物を救助し、治療します。



普及啓発

展示やレクチャーなどを通じて、生物のおかれている現状や、生物多様性保全の重要性を伝えていきます。



水族館⑤ 教育への取り組み

人・自然・生物との交流をテーマとした多くの取り組みを行います。

教育プログラムの体系

展示・解説による教育活動以外に、「楽しく学ぶ」をテーマに、多種多様な入館客のニーズに合わせて、以下の教育プログラムを複合的に実施します。

特別会員を対象とした月例学習会、バックヤードツアー、ナイトステイ、ナイトツアー、サマー/ウィンタースクール、トレーナー・飼育係体験、特別レクチャー、学校団体プログラムなど。学校団体プログラムは、学年などニーズに合わせて内容を調整し、館内だけではなく、希望に合わせて出張授業も実施します。

VR、ARや携帯電話のアプリなどの最新ツールを用いた解説など、多言語に対応するとともに、様々なニーズに対応し、利便性を高めます。

教育プログラムの例

館内、館外講演(海の生物教室など)
イベントとして、または学校団体などを対象に、海の生物の生態を紹介するレクチャーです。



動物友の会月例会
会員を対象とした教育活動です。(月2回、土曜日に実施)



サマー/ウィンタースクール
夏休み・冬休み期間の小学生を対象とした教室。動物とのふれあい体験を通じて、水の生き物について楽しく学べる体験型プログラムです。



ナイトアドベンチャー
地元住民・宿泊客を対象としたナイトツアー。飼育員が動物たちの独特な睡眠方法などについて、解説を交えながら夜の水族館を案内します。



ジュニアトレーナー
小学校高学年を対象としたトレーナー体験教室。日々トレーナーがおこなっている業務を実際に体験します。



移動教室
自然保護の教育普及を目的とし、地域の学校を訪問します。



集客に向けた具体的な取り組み

通年での集客プログラムの展開(例)

顧客満足度向上を目指し、マーケティングに基づいた集客計画により一年を通して安定的な集客を図ります。



水族館⑥ 利用料金、地域への取り組み

多様な料金体系、入館プランより様々な方が利用しやすい施設とします。

利用料金体系とその設定根拠

利用料金体系、市内中学生以下の利用料金設定とその考え方

- 半日以上楽しむことができる商業施設となることで基本料金は3,100円で設定。また来場者数の平準化を目的に季節に応じて一部変動価格制を導入することで混雑を緩和し、ご利用しやすい環境を整えます。その他来場者に合った料金設定がなされることから多くの市民や観光客が利用しやすい料金体系となります。(変動価格制の導入期間等については、毎年事前に神戸市へ報告します)
- 市内中学生以下の利用料金設定は、全ての神戸市の子供たちに神戸須磨シーワールドに来ていただき、地域コミュニティ・集客ランドマークとなるために、年1回(除外日設定なし)ワンコイン(500円)で入場できる金額とします。

項目	対象区分				
	大人(高校生以上)	小人(小学生・中学生)	幼児(4歳～6歳)	シニア(65歳以上)	その他
基本料金	3,100	1,800	1,800	2,500	—
変動価格制	2,900～3,700	1,700～1,800	1,700～1,800	2,300～3,100	—
2日券	4,350～5,550	2,550～2,700	2,550～2,700	3,450～4,650	—
障がい者	1,200	650	650	—	付添大人 2,480 付添小人 1,440
通常団体(15名以上)	2,640	1,530	1,530	—	—
学校/子供会	1,550	900	900	—	付添大人 1,550
敬老(団体) (65歳以上15名以上)	1,860	—	—	—	付添大人 2,480
福祉施設	1,860	1,080	1,080	—	付添大人 2,480
コンビニ前売券	2,610～3,330	1,530～1,620	1,530～1,620	2,070～2,790	—
企業契約	2,610～3,330	1,530～1,620	1,530～1,620	—	—
神戸市子供向け提案	—	500	0	—	—

※年1回利用可、除外日設定なし

入館プラン

- ①水族館の活用を拡張する入館プラン
 - ②交通機関と連携した入館プラン
 - ③神戸のインバウンドや観光客の集客の核となる他施設と連携した入館プラン
 - ④地域住民やファンを対象とした入館プラン
- の4つのカテゴリーをもとに多様な入館プランを設定します。

年間パスポートの購入によって、水族館の様々なサービスを利用できます。

年間パスポートの概要	年間入館フリーパス 同伴者割引 有料プログラムの割引、無料化 館内レストラン・売店割引 宿泊割引 情報発信 機関紙配布 パスタープレゼント 等	通年	個人会員		
			大人(高校生以上)	小人(小学生・中学生)	シニア(65歳以上)
			11,000円 継:9,000円	6,500円 継:5,500円	9,000円 継:7,000円
			ファミリー会員		
			大人(高校生以上)	小人(小学生・中学生)	シニア(65歳以上)
			10,000円 継:8,500円	6,000円 継:5,000円	8,000円 継:6,500円

他園館との協力体制・地域貢献

須磨海浜水族園での体制を継承し、(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)加盟園館との多岐にわたる協力体制を構築します。特に関西エリアの園館とは密接な関係を継続していきます。国内の水族館にとどまらず、海外の水族館とも友好関係を構築し、交流を深めていきます。また、神戸市や須磨周辺エリアの行政・企業・住民の方々との協力体制も継承し、地元地域へ貢献します。

子育て支援プログラム

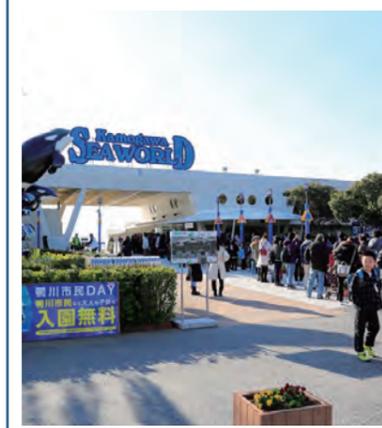
神戸市在住で満2歳になるお子様がいるご家庭に水族館の年間パスポートとシャチのぬいぐるみをプレゼントします。(神戸市様のご協力が必要)



※画像は鴨川シーワールドと鴨川市長のもの

市民DAY

神戸市民特別優待DAY
神戸開港記念日(12/7)を神戸市民DAYに制定し、神戸市在住のお客様を特別料金で対応します。
入園料/通常料金3,100円を1,000円



敬老の日感謝DAY

日頃の感謝をこめて、神戸市在住の65歳以上のお客様を特別料金入園料1,000円で対応します。



研究発表・プログラム実施回数等の目標値・KPI

研究発表の実施回数等の目標値・KPI

研究発表 2回/年、論文投稿 2件/年などの目標に加えて学会や論文以外の多様な発表媒体を通して社会教育を行います。

プログラムの実施回数等の目標値・KPI

プログラムの中でも以下に示す活動を基礎として通年で継続して行い、時代の潮流に合わせた魅力的なプログラムを行います。

- ①動物友の会月例会 1回/月
- ②サマー/ウィンタースクール 50名×10回
- ③ジュニアトレーナー 6名×20回
- ④出前授業(ウミガメ教室他) 50校/年
- ⑤館内レクチャー 50回/年
- ⑥ナイトツアー 50回/年

飼育技術向上などを目的とした従業員の研修計画

鴨川シーワールドのネットワークを用いて、研修各分野において先進施設における研修を行うことで、豊かな飼育環境を支える技術を養います。

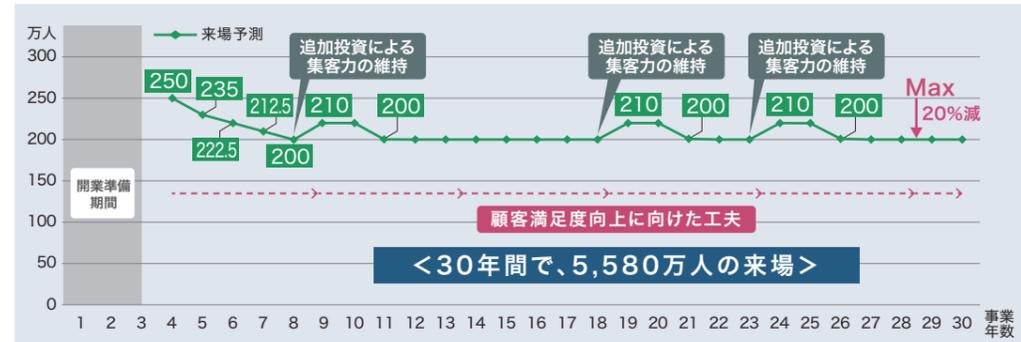


水族館⑦ 来場者数目標・投資計画

開業年250万人、安定年200万人の集客を見込み、30年間の継続的・安定的な集客を図りつつ、戦略的な投資計画と顧客満足度向上の取り組みにより、集客維持を図ります。

来場者数目標と30年間の来場予測

- 30年間の来場予測はモデル式を用いた来場予測をベースに、商圏人口と捕捉率の関係とインバウンドの来場予測、シャチを有する水族館の来場者の減衰の傾向、投資計画・顧客満足度向上に向けた工夫を組み合わせることで導き出しました。
- 安定的に約200万人/年、内インバウンド約20万人の集客が見込まれ、30年間で5,580万人の集客が予測できることから、神戸・須磨の観光の核となります。



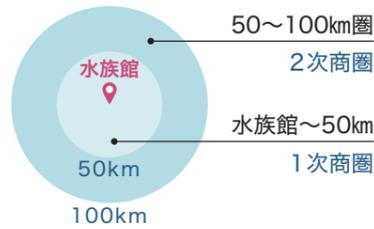
須磨海浜水族園と鴨川シーワールドとの商圏人口と捕捉率の関係による予測

須磨海浜水族園と鴨川シーワールドの周辺商圏人口と捕捉率

周辺商圏人口、捕捉率、マーケットシェアの考え方

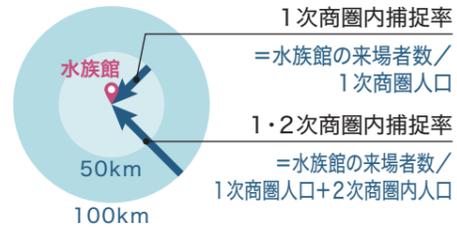
周辺商圏人口の考え方

水族館から50km圏内を1次商圏、50～100km圏内を2次商圏としています。



捕捉率

各商圏内の人口と水族館来場者数との比率を表します。



神戸須磨シーワールドでは1・2次商圏内での商圏人口捕捉率8.92%を望むことができ、インバウンドを除いて約184万人の集客が見込まれます。

集客予測の考え方

- 現須磨海浜水族園から鴨川シーワールド同様半径50kmを第1次商圏、50～100kmを第2次商圏とした場合、第1次商圏のほうが人口集積が厚く、水族館数も関東圏に比べて少ない。また現須磨海浜水族園の第1次商圏内の捕捉率は8.92%、第1・2次商圏内では5.76%となっています。
- 商圏が大きく、競合施設も少ない現須磨海浜水族園の場所で鴨川シーワールドと同様の展示構成、同レベルのシャチ・イルカパフォーマンスを展開した場合、第1次商圏の捕捉率8.92%が上昇する可能性は十分考えられ、加えて現在の第1次商圏での捕捉率は鴨川同様第2次商圏にまで波及し、安定年200万人を集客できる可能性があると分析できます。

シャチを有する水族館の来場者の減衰の傾向

希少鯨類シャチによる集客数の維持傾向

- 現在日本でシャチを展示する水族館は鴨川シーワールドと名古屋港水族館の2館です。2つの水族館の歴史は長く、軒並みイルカ飼育のみの水族館や魚類展示のみの水族館が来場者数を落とす中で(京都水族館は45%に減衰)、集客数を維持しています。2館の展示構成の変化と来場者数変化はシャチ展示の導入が大きな影響を与えていることがわかります。
- 神戸須磨シーワールドでは上記2館の来場者推移をもとに①シャチによるパフォーマンス、②長時間滞在ができること、③後背人口が多い立地であることを加味し、年間入館者ピーク年から安定年までの来場者数減が20%程度であると予測しました。

右記2館の傾向と神戸須磨シーワールドの特徴から

年間来場者ピーク年からの減衰が20%程度であると予測しました。

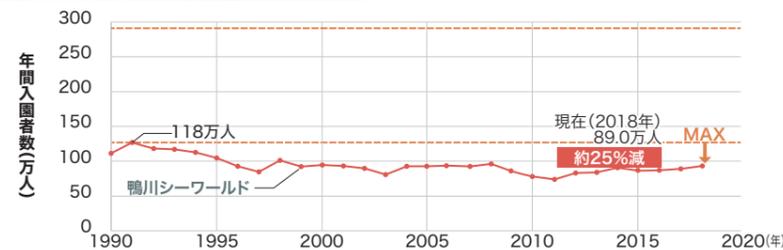
鴨川シーワールド



- 展示
- ・シャチパフォーマンス
 - ・イルカパフォーマンス
 - ・ペルーガ、アシカパフォーマンス

考察

1987年にシャチのパフォーマンスを開始し、バブル崩壊(1992)まで来場者数を伸ばしていたことに加えて、現在の展示構成において2000年から営業を行っているが、その時点からの来場者数はほぼ横ばいである



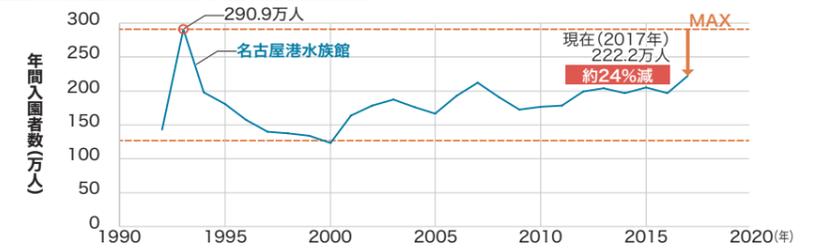
名古屋港水族館



- 展示
- ・シャチ展示
 - ・イルカパフォーマンス

考察

2001年の北館オープンにより、シャチの展示も始まり、現在も続く展示の構成が出そろった。集客数が最も多かった年からは約24%の集客減を見ているがシャチを導入後から見ると集客数は上がっている。



投資計画、顧客満足度向上に向けた工夫

投資計画

神戸須磨シーワールドの投資計画

- 神戸須磨シーワールドの投資計画は初期投資、追加投資によって行います。初期投資では来場者数安定年200万人を達成し、神戸・須磨の観光集客の核とするため、集客力あるパフォーマンスを行うことができる「オルカスタジアム」と「イルカスタジアム」、様々な魚類を展示する魚類・アシカ・ペンギン展示施設「アクアライブ」を合わせて日本最大級の投資を計画します。

開業後5年毎に追加投資

- 施設の魅力向上及び集客維持のため、開業後5年毎に追加投資を行います。常に時代の潮流を意識し、お客様に何度も足を運んでいただける施設を目指します。

宿泊施設① 基本方針、基礎情報

神戸・須磨の魅力を凝縮し、公園全体の価値を高めるホテルコンセプト「神戸須磨シーワールドホテル」

ホテルコンセプト

海への旅にいざなう価値体験型ホテル 『神戸須磨シーワールドホテル』

水族館併設ならではのユニークな宿泊体験

- ここにしかない、日本初のドルフィンラグーン
- 水槽のあるプレミアムルームなど、館内の随所で水族館を感じる
- 隣接する神戸須磨シーワールドのオフィシャルホテルとして宿泊者限定サービスを提供(ナイトアクアリウムのイベント体験など)

全室オーシャンビューをもつ寛ぎの空間

- 明石海峡大橋・淡路島から西日本最高のサンセットまで眺望を満喫できるバルコニーデッキ
- 海を望む寛ぎのビューバス

客船をイメージした内外環境デザイン

- 港町・神戸の新しいランドマークとなるデザイン
- 船旅のロマンや期待感を演出するイメージ戦略

地産地消にこだわったフード&ビバレッジ

- せとうちハーバーレストラン(ブッフェレストラン)
- 瀬戸内海の魚介類、神戸牛や神戸ワインなどの神戸ブランド、淡路など兵庫県産の食材をこだわりの調理法で提供

マリンアクティビティなどコト体験プログラム提供

- クルージング体験
- マリンスポーツ(ウインドサーフィン、SUP、釣り)
- ヨガ、スバ、ランニングなど須磨ならではの「コト体験」価値を提供

地域や世界とつながる旅体験

- ホテル・コンシェルジュが神戸・須磨のみどころや名店を案内
- 世界の水族館やホエールウォッチングなどのツアーアレンジ



基礎情報・サービス内容

客室数：80室(3~7F)

定員：294名

価格帯：客単価 約16,000円
(Aタイプ1泊2食付/税金サービス別)

付帯施設：ブッフェレストラン、せとうちハーバーレストラン(計 約720㎡)

施設概要

RoomType	Floor	室数(室)	面積(m ²)	収容人員(名)	総収容人員(名)	備考
A-1	4F~7F	4	55	5	20	
A-2①	3F~7F	4	46	4	16	
A-2③	3F~7F	35	46	4	140	
A-3	3F,7F	2	46	4	8	
A-U	3F	1	58	5	5	
B-1	3F~7F	10	29	3	30	
B-2	4F~6F	3	29	3	9	
B-3	3F~7F	10	29	3	30	
S-1	4F~6F	3	47	3	9	水槽付プレミアムルーム
S-2	3F~7F	5	54	3	15	
SS	4F~6F	3	63	4	12	水槽付プレミアムルーム
合計		80			294	

経営の考え方(商圈・ターゲット設定、実施目標・KPI)

商圈の考え方

水族館と同様の商圈として、**基本商圈 50km**、**観光商圈 100km**と設定します。

ターゲットの構成

- メインターゲット：関西圏のアップーミドルのファミリー層(繁忙期は中四国、東海、九州エリアまで拡大)
- サブターゲット：カップル、女性グループ利用、インバウンド富裕層(FIT)

利用者数・稼働率目標(KPI)

利用者数 **141,800人/年**目標とする。(内、宿泊利用者59,200人、レストラン利用者82,600人)

宿泊施設② 外観・内装、宿泊利用者以外の方の利用(外部利用)

(株)グランビスタ ホテル&リゾートのホテル運営による、おもてなしの提供

南側外観

海へと迫り出したデザインにより、**全室オーシャンビュー**とし、五感で海を楽しむことができます。



北側外観

建物の正面にモニュメントを配置し、公園を訪れる方々を出迎えます。



デッキテラスからドルフィンラグーン、海への眺望

飼育員・トレーナーの解説を聞きながら、イルカウォッチングや給餌体験などイルカとふれあえるラグーンを設けます。



プレミアムルームをはじめ、豊かな客室バリエーション

水族館に併設されたホテルならではのプレミアムルーム(6室)を用意し、客室内に水槽を設置して、**水族館利用者の期待と余韻を演出**します。



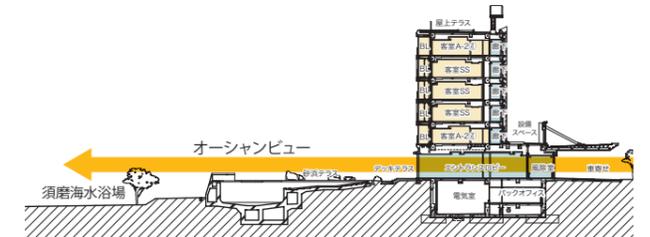
デザインコンセプト

①ここにしかない特別な体験

・イルカと一緒に泳げるプールと、イルカとふれあう砂浜です。これらアクティビティを、水族館との一体運営により実現します。ここにしかない、特別な体験です。

②ホテルと海を一体化

・ゆったりとデッキテラスでくつろぎ、ドルフィンラグーンで遊ぶ子供たちを見守りながら、その先に広がるオーシャンビューを楽しむ。海と一体化した空間を創出します。



宿泊利用者以外の方の利用(外部利用)

利用できる区域・内容・利用促進の工夫

- ・1・2階部は、宿泊利用者以外の外部利用もできるエリアとし、海浜公園や海岸・ヨットハーバーと一体的なガーデンを設置します。
- ・せとうちハーバーレストラン(ブッフェレストラン)、ドルフィンラグーン等を配し、水族館、にぎわい施設と併せて、公園全体での複合的な運営連携、宣伝告知、イベント連携などにより、地域住民含めて積極的に外部利用を促進します。
- ・「EAT LOCAL KOBE & SETOUCHI」をコンセプトにして瀬戸内海の魚介類、神戸牛や神戸ワインなどの神戸ブランド、淡路の食材など、地産地消にこだわった当ホテルならではのメニューを展開します。



外部利用可能時間帯

10:00~22:00(仮)

駐車場① 施設計画

利便性・機能性を追求した、人にやさしい、まちにやさしい駐車場を計画します。

駐車場の考え方と収容台数

- 駐車場は、事業区域東側に集約配置し、公園内の歩車分離を考慮した効率的な駐車場計画とします。
- 立体駐車場(4層5段)を整備し、常設駐車台数1,316台、事業区域内の臨時駐車場合せて1,449台を確保します。また海水浴期間においては、現状と同様、事業区域外の平面駐車場E及び臨時駐車場Fと一体運営し、合計1,863台として海水浴客の駐車需要に対応することをご協議させていただきます。
- **インバウンド観光客誘致**のために、**観光バス専用駐車場(20台)**を設けます。
- 自動二輪・原付駐輪スペース(64台)を設けます。
- 交通管理者との協議等により必要があれば、ハード・ソフトの両面から交通渋滞を発生させない手法を継続して検討します。



パース図：立体駐車場A外観イメージ

		駐車台数	合計台数	
事業区域内	立体駐車場 A	726 台	通常 GWなど 1,316 台	GWなど 休日ピーク日は 事業区域内 海水浴期間は 臨時駐車場も 事業区域外の 駐車場と連携して 1,449 台 1,863 台
	平面駐車場 B	328 台		
	平面駐車場 C	67 台		
	ホテル専用駐車場	24 台		
	観光バス駐車場	(20 台)		
	自動二輪・原付駐輪スペース	(64 台)		
	臨時駐車場 D (多目的広場)	133 台		
事業区域外	平面駐車場 E	171 台※	171 台	171 台
	臨時駐車場 F (多目的グラウンド)	414 台		

参考：
現況の駐車台数
第1P 901台 / 第2P 142台
臨時駐車場 587台
合計1,630台

※平面駐車場Eの駐車台数は、本事業外の工事により、変更となる場合があります。

運営計画

①法令順守

- 建築基準法、駐車場法など法令順守します。
- 立体駐車場は**4層5段**として計画しています。

②営業時間

- **24時間営業を基本**とし、公園利用者やヨットハーバー利用者を含めた多様な利用者ニーズに対応します。

③誘導対策

- 駐車場入出庫口及び場内に、**わかりやすい誘導サイン**を設置します。
- 休日のピーク時など、駐車場入出庫口など主要な地点に、**適切な駐車場誘導員を配置**し、円滑な交通誘導及び交通安全確保に努めてまいります。

料金・サービス

- 水族館や公園だけでなく海水浴場やヨットハーバーの利用も想定した、**弾力的な料金設定**を行います。
- **海水浴期間や開業年など、駐車台数の不足が予測される日は**、駐車料金を引き上げ、**駐車需要の抑制に努めます**。併せて、公共交通機関利用者に対する割引サービス提供により、実効性のある駐車需要の抑制方を展開します。
- 駐車料金を引き上げた分の収入増については、駐車場誘導員(増員)やフリンジ駐車場確保及びシャトルバス送迎コストなど必要な費用に割り当てます。

現状

	はじめの1時間	以降1時間ごと
土日祝及び7・8月(海水浴期間)	400円/時間	200円/時間
平日	300円/時間	200円/時間 一日最大料金700円

計画

7・8月(海水浴期間)	500円/終日60分 最大料金無し
土日祝日、GW	
平日	立体駐車場A 平面駐車場B 400円/最初の60分 200円/以降60分 一日最大料金700円

※平面駐車場Cは、台数に限りがありますので、短時間利用者用駐車場として運用します。にぎわい施設の利用認証がない駐車については2時間以降の駐車は1時間あたりの利用料を高くする設定とします。ただし具体的な運用・設定内容については、公園利用者の利便性を考慮しながら、神戸市とも協議し、継続して検討します。

- 水族館・にぎわい施設の利用者に対する駐車料金割引については、別途検討してまいります。
- **電子マネー/キャッシュレス対応の精算機を設置**し、出庫時間の短縮化を図ります。

駐車場② 動線計画(車両)

歩行者と車両の交錯の少ない、駐車場配置・入出庫計画とします。

各種車両動線(一般車、ホテル・観光バス、市バス、管理用車両・緊急車両)

- 主たる駐車場は、事業区域東側に集約配置し、公園内における歩車分離を図ります。サービス用車両は、別途入出庫口を設けますが、営業時間外の入出庫に努め、歩行者の安全性を確保します。
- 方面別の入出庫動線は、現状の自動車入出庫動線を踏襲します。

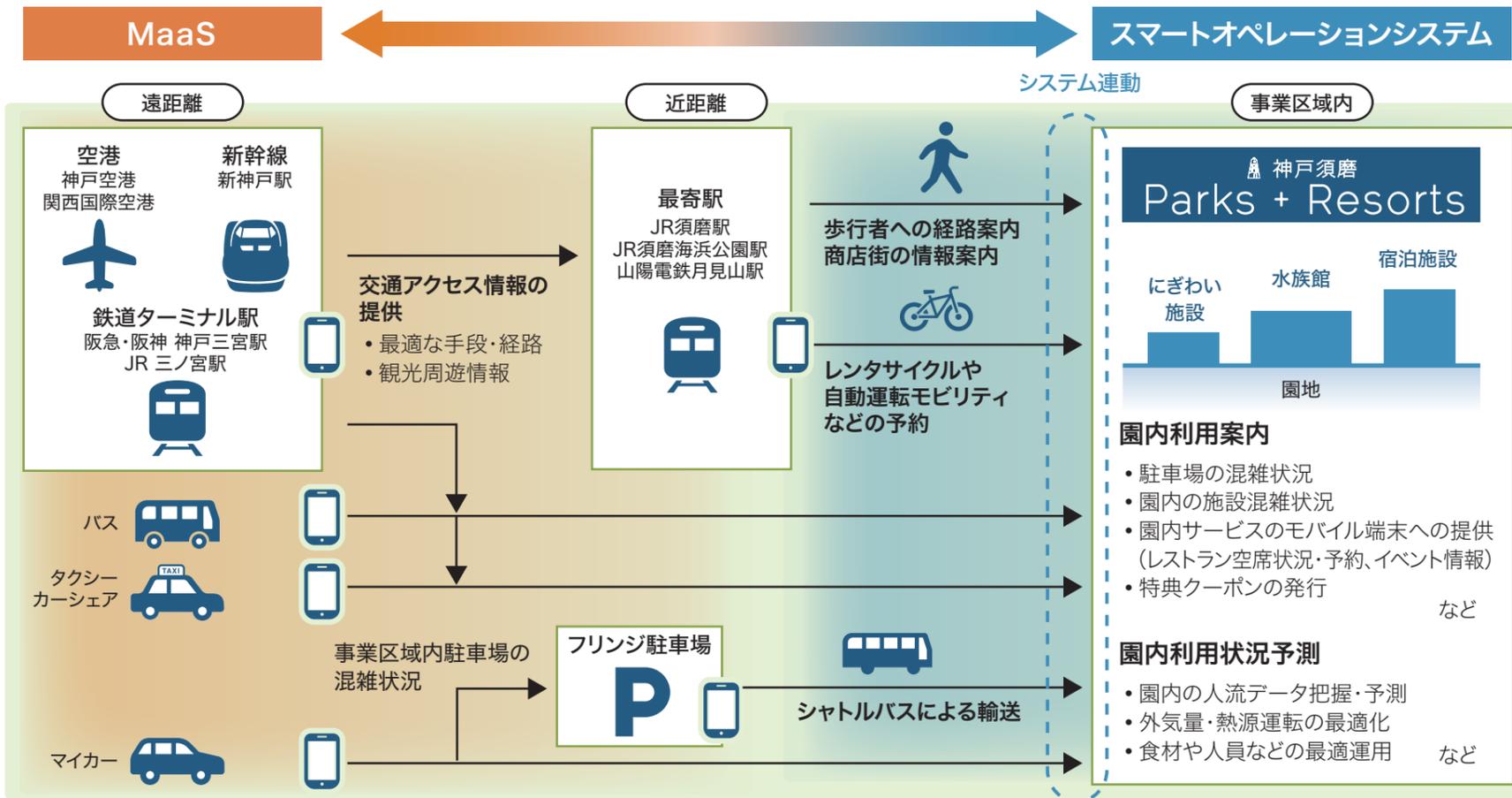


駐車場③ 交通渋滞の緩和策

交通事業者と連携したMaaSにより、事業区域への最適アクセス経路を案内・誘導します。

MaaSによる効果的な情報提供

- 交通事業者との連携により、観光MaaSアプリを活用し、道路混雑情報や公共交通の運行情報から、利用者に最適な交通手段・経路を案内したり、周辺の観光情報を提供します。
- また目的地が同じ人たちを募って、各所で乗客をピックアップしたり、事業区域内のスマートオペレーションシステムと連動し来園予定者に予め園内の混雑状況や駐車場の空き状況を提供することも可能です。



自動車による来場(交通誘導の考え方など)

高速利用者に対する経路案内

- 1日自動車来台数の45.6%を占める「高速・東方面」からの来園者に対する東駐車場への経路案内において、MaaSやカーナビゲーションアプリとの連携により、若宮出入口(IC)ではなく1つ手前の湊川出入口(IC)で降車させるよう誘導を行い、衣掛町交差点でのUターン交通量を抑制します。

国道2号における渋滞緩和策

- 「国道2号・東方面」から東駐車場への入庫において、5/3実態調査では海浜公園交差点にて東駐車場を認識できずに直進してしまう車両が多くみられ、国道2号および衣掛町交差点への負荷が大きくなっていました。そこで本計画では、MaaSやカーナビゲーションアプリとの連携に加えて、若宮交差点付近に道路案内サインを設けて、海浜公園前交差点の左折によるスムーズな入庫を実現し、国道2号でのうろつき交通を抑制します。
- 国道2号線に交通渋滞が発生した場合は、東駐車場にて出庫規制を実施します。

誘導整備員の配置及びサイン計画

- 各駐車場の出入口付近に交通誘導整備員を配置したり、周辺道路の巡回を行うなど、安全かつ円滑な交通誘導に努めます。
- 開業時及び繁忙時等の交通混雑が予想される日には、交通誘導整備員を増員して配置し、周辺交通への影響を最小限に抑えます。
- 駐車場誘導にあたっては、来園車両が混乱することがないように、出入口付近に案内看板を設置し、適切な誘導サインによって円滑な入庫処理が行えるようにします。

隔地(FRINGE) 駐車場への誘導

- 海水浴期間など繁忙期には、大規模な隔地(FRINGE) 駐車場を確保して、計画地周辺の発生集中交通量を抑制します。
- 隔地(FRINGE) 駐車場と須磨海浜公園の間は、相互にシャトルバスを運行することで輸送力を高め、利用者の利便性を図ります。
- その他、駐車場運営者が運営する近隣の時間貸し駐車場との連携も行います。

公共交通手段の活用策

公共交通の利用促進策

- 公共交通と連携し、「往復フリーきっぷ」と「神戸須磨シーワールド入場券」のセット販売による割引サービスを提供したり、ICカードを用いて鉄道利用と水族館入館手続きを連動させた利用促進策を実施します。
- 最寄駅からのアクセスをより楽しめる仕掛けとして、周遊企画乗車券の販売や、スマートフォンの地図アプリを活用した多言語による敷地・周辺案内や歴史発信を行うモバイルラリーを開催し、鉄道利用に付加価値を与えます。

公共交通手段関係者との連携

- 繁忙期など団体観光客などの大量来園が見込まれる際には、旅行代理店と連携を図り、臨時列車の設定を検討します。
- 他にも、三宮をはじめとする周辺観光エリアとのバス連携を図ります。

実効性の高い交通需要マネジメントの施策展開

- 繁忙期(海水浴期間)などにおける駐車場需要を抑制するために、公共交通機関への誘導を含む、交通需要マネジメント(TDM)の施策展開を検討します。

公共交通手段からの動線



その他① 地域経済への効果

本事業により、建設時384億円・開業後323億円/年の経済波及効果、建設時2,409人・開業後3,394人の雇用ニーズ創出が期待されます。

地域経済への効果(開業前)

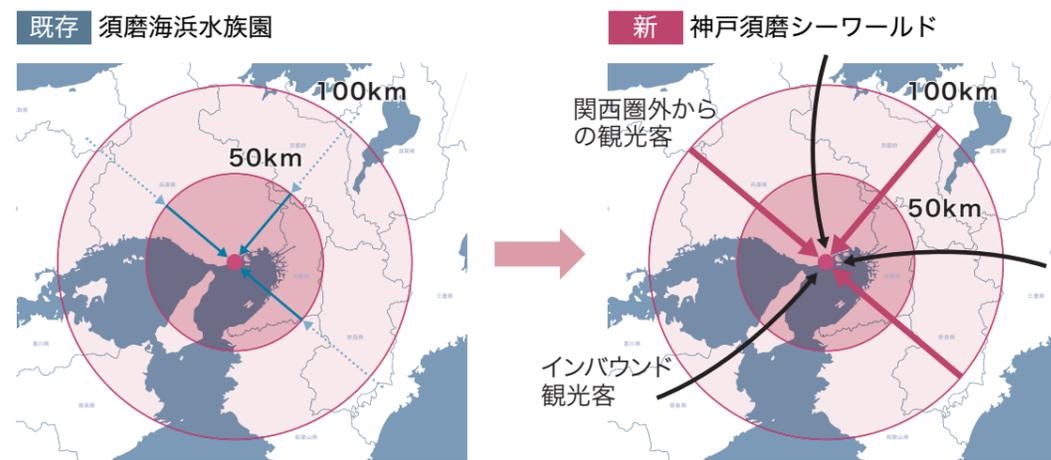
市内・地域事業者の積極的な活用

- 建設にあたっては、神戸市内へ経済効果が波及するよう、神戸発祥で市内に事業所のある(株)竹中工務店が担当するほか、神戸市内に本社または事業所のある協力企業を経済合理性の見合う範囲で、積極的な活用を検討していきます。

地域経済への効果(開業後における来園者消費効果)

来園者数予測

- 開業後の須磨海浜公園来園者数は、水族館・宿泊施設・にぎわい施設・一般公園利用・須磨海岸の各施設の合計により、開業年で約440万人、安定年で約390万人と予測されます。
- 現状の須磨海浜公園と比較した場合、約1.6倍(+155万人)の来園者数の増加が期待されます。



地域経済波及*

- 上記の施設別来園者消費額について「平成23年 神戸市産業関連表」及び想定される建設費の内訳をもとに、各産業(その他の製造工業製品、港湾以外の運輸、宿泊業、飲食サービス、対個人サービス)へ分類しました。
- 経済波及効果は、建設効果と同様のフローで推計を行いました。

来園者数	390万人
来園者消費額	323億円/年
地域経済波及	
生産誘発額	323.4億円/年
雇用者誘発数	3,394人

*地域経済波及については、「須磨海浜水族園の再開発に伴う効果に関する調査 報告書」(2019年7月) (事前マーケティング調査)において算出した結果です。

須磨海浜公園へのインバウンド来園者数KPI

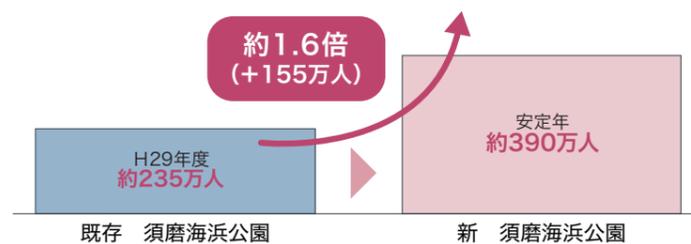
- 水族館について、関西エリアの水族館でインバウンド比率の高い海遊館などの動向を踏まえ、新たな魅力を追加し、インバウンドへの訴求を高めることで、水族園来場者の10%程度を当面の目標とします。
- また水族館を起爆剤として、須磨海浜公園全体を回遊するような取り組みをすることによって、2025年を目標年次とした神戸空港国際化が実現した際には、インバウンドの更なる取り込みを実現します。

来園者消費額*

- 上記の施設別来園者数に対して算出した来園者消費額の合計により、年間来園者消費額は323億円と推計されました。
- 来園者消費額の算出にあたっては、独自に実施したアンケート調査より得られた「エリア別の来園者割合」「日帰り/宿泊割合」「1人当たりの消費額(日帰り/宿泊)」や、各施設の想定売上額、「平成29年度神戸市観光動向調査結果」や「2018年レジャー白書」より引用した観光消費額を用いました。

[事前マーケティング調査概要]

対象 : 兵庫、大阪、京都、岡山、香川、徳島在住者 計2,930名
 実施時期 : 2019年5月
 主な項目 : 神戸須磨シーワールドの利用意向・交通手段宿泊意向(日帰り/宿泊)周辺利用を含めた支払意思額 等



その他② 事業の実施目標・KPI

須磨海浜公園の全体で、年間集客390万人(安定年)を目指します。

事業の実施目標・KPI

下記の通り、事業の実施目標・KPIを掲げ、事業管理を行うとともに、公園の運営管理の改善を図ってまいります。

事業の実施目標・KPI		
公園全体	年間集客数	開業年 440万人 安定年390万人
水族館	年間集客数	開業年 250万人 安定年200万人
宿泊施設	客室稼働率	開業年 84% 安定年86%
	年間集客数	開業年 14万人(うち、宿泊客数59,200人、レストラン利用者 82,600人)
にぎわい施設	年間集客数	開業年 72万人
イベント	開催回数	305回
	年間集客数	24.9万人
公園管理・魅力向上	管理スキル向上のための 防災・避難訓練	年1回
	防災イベント	年1回
	須磨松林クラブ活動 及びグリーンイベント	年6回
公園利用満足度		アンケートを実施するなど、公園の再整備前後の満足度の測定を行うことなどを検討します。

その他③ 価格提案

上質な公園の整備・運営について、付加価値に相当する費用負担をするとともに、水族館の売上に応じた公園使用料をご提案します。

特定公園施設の整備に係わる提案額

面積	単価(上限)	合計額(税込)
48,460㎡	20,000円/㎡	969,200千円

※消費税率10%とする

特定公園施設の整備費用総額は、右表の通り、1,460,327千円(税込)を想定しており、そのうち491,127千円(税込)(総額の33.6%)は事業者にて負担し、969,200千円(税込)で神戸市へ譲渡いたします。
※神戸市譲渡額上限は973,880千円

■特定公園施設 整備費用 (千円)	
項目	総額
合計(税別)	1,327,570
合計(税込)	1,460,327

※行政指導等による整備内容の変更に伴い、費用が変更となることがあります。

特定公園施設の維持管理費の提案

■指定管理料 ※消費税率10%とする

面積	年単価	年額(税込)	年額(税別)
48,388㎡	580円/㎡	28,065千円	25,514千円 ※パークコンシェルジュ棟(須磨ホール72㎡以外)を含む

公園の魅力向上や通年にぎわいの創出を図るため、開業後の特定公園施設の維持管理費用総額は、210,745千円/年(税込)となりますが、その差額は水族館収益やイベント収入などを還元し、補填します。

■特定公園施設 維持管理費(税別)

【収入】 (千円)		【支出】 (千円)	
項目	総額	項目	総額
収入計(税別) ①	40,550	支出計(税別) ③	191,586
収入計(税込) ②	44,605	支出計(税込) ④	210,744

(千円)	
項目	総額
水族館収益からの補填額(税別) ③-①	151,036
水族館収益からの補填額(税込) ④-②	166,140

公募対象公園施設の設置許可に基づく年間使用料の提案(総額)

①年間使用料

11,601千円/月×12ヵ月=139,210千円/年 内訳は下表の通りとなっています。

	面積		月額使用料		
	面積	合計	月㎡単価	月額	小計
園地	48,145㎡	48,145㎡	0円	0千円	—
パークコンシェルジュ棟	315㎡	315㎡	0円	0千円	—
地下埋設施設	390㎡	390㎡	0円	0千円	—
A 水族館	24,284㎡	24,284㎡	110円	2,671千円	2,671千円
B 駐車場	20,433㎡	20,433㎡	220円	4,495千円	4,495千円
C 水族館内レストラン 宿泊施設 にぎわい施設	1,898㎡	10,078㎡	440円	4,434千円	4,434千円
	5,443㎡				
	2,737㎡				
合計	103,645㎡			月額合計 11,601千円	年額合計 139,210千円

②海水浴期間の繁忙期(7/8~8/31)における追加使用料の提案

臨時駐車場D 3,000㎡ 臨時駐車場F 10,145㎡
臨時駐車場使用料 13,145㎡×210円/月㎡×(1× $\frac{55}{30}$)=5,061千円/年

①+②年間使用料 144,271千円

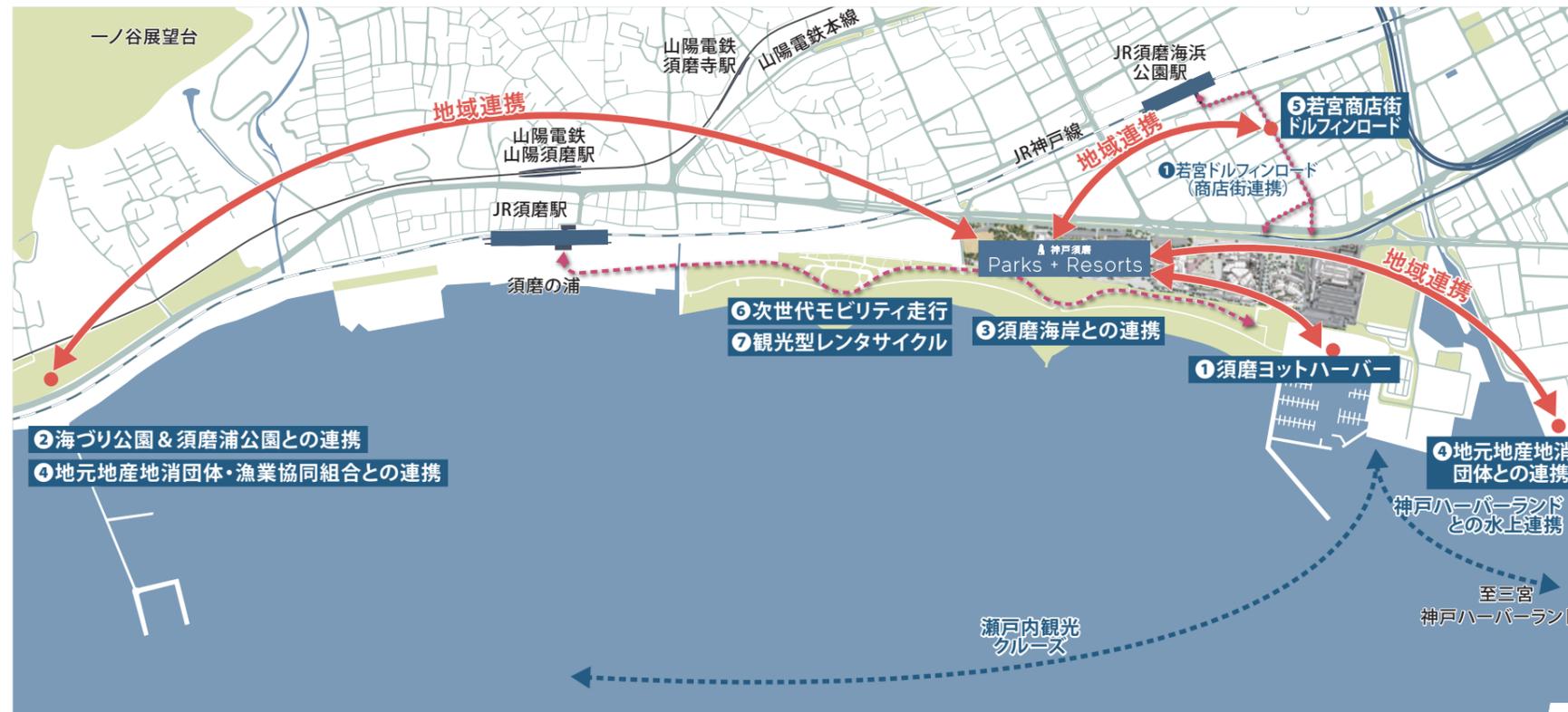
公園設置許可使用料の上乗せ提案

- オープン6年目以降において、公募対象公園施設の利用実績が事業計画で予定している収入額を上回った場合、上回る部分に対して公園施設設置許可使用料を下記の通り上乗せいたします。
 - ①水族館売上 7,290百万円(税別)(入園者数想定190万人)超の場合、年間使用料72,136千円上乗せ(年間使用料の50%)
 - ②水族館売上 8,068百万円(税別)(入園者数想定210万人)超の場合、年間使用料144,271千円上乗せ(年間使用料相当)
- 水族館の売上については、新水族館の運営会社を新たに設立することで、神戸市に対して、適切かつ明確な会計報告を行います。

その他④【参考提案】須磨海岸やヨットハーバー等、周辺施設との連携に関するアイデア提案

近接施設との連携や一体利用により、集客の相乗効果を生み出し、須磨海岸エリアを活性化します。

隣接施設との一体利用や連携のアイデア



① 須磨ヨットハーバーとの連携

海を望むレストランの整備

- 海を望む開放的なレストランを整備し、須磨海岸エリアの利便性を向上させます。

マリナクティビティの充実

- ヨット教室などのマリナクティビティを充実させるなど、「須磨マリーナ」のブランド向上を目指します。

埠頭整備による水上連携

- 地元有力海運事業者などとの連携により、観光地として人気の高い神戸ハーバーランドとの水上連携を行い、須磨海岸エリアへの更なる誘客を図ります。
- 将来的には須磨ヨットハーバーが瀬戸内観光クルーズ船の新たな停留地となるよう最大限努力します。



神戸ハーバーランド

② 海づり公園&須磨浦公園との連携

- 海づり公園利用者が釣った魚を宿泊施設内の瀬戸内ハーバーレストランに持ち込み調理していただくことのできるなどの連携を図ります。

③ 須磨海岸との連携

- 浜辺を利用して、ビーチバレーやアートイベント、ヨガ教室などを開催します。
- 計画地内にトイレ等を整備することで、須磨海岸エリアの利便向上を図ります。



④ 地元地産地消団体・漁業協同組合との連携

- 公園内でマルシェイベントを開催することで、地産地消を促し、地元生産者や地域経済に還元します。
- 宿泊施設内の瀬戸内ハーバーレストランや公園内で行うマルシェイベントなどで食材提供を受け、地産地消に貢献します。
- 須磨海浜水族園が行っている里海の会の活動や、地引網を通じた食育交流ワークショップを継承します。

公共交通機関からのエンターテインメント性のあるアクセス

⑤ 若宮商店街ドルフィンロードとの連携

- 須磨海浜公園駅からのアプローチを魅力化します。
- 水族館HPなどで商店街に関する積極的な情報発信を行ったり、来園者に商店街マップを配布します。
- 周遊企画乗車券の販売やスマートフォンを使ったモバイルラリーイベントの開催により、須磨海浜公園駅からの来園者により楽しく歩いてもらえる仕掛けづくりを行います。

⑥ 海岸沿いを走行する次世代モビリティ

- モビリティなど須磨駅から須磨海浜公園までのエンターテインメント性のある移動手段として実験運行に協力し、実現化を目指します。
- 時速5kmの人の歩く速度で走るモビリティに乗ることで、人々は普段と違う景色を楽しむことができ、海の近くにある公園の良さをより体感することができます。
- 高齢者や足の不自由な方の歩行支援の役割も担います。



⑦ 観光型レンタサイクルサービス

- 来園者のニーズにより、JR須磨駅、須磨海浜公園駅からのアクセス支援となる観光型レンタサイクルサービスの提供を検討します。まち観光への波及効果の創出にもつながります。

※参考提案は、今後神戸市が施策等を検討する際のアイディアとして提案したものであり、全てが実現されることを保証するものではありません。